

東京外国語大学 留学生支援の会

No.34
年3回発行

Since 1999

会報

新規ご加入、ご寄付くださった皆様のご協力に御礼申し上げます。
留学生は日本で数多くの体験をし、志高く勉学に励み大きく成長することと思います。

Pick Up
Event 2010

見たい行きたい楽しみたいと留学生！！あじさいが映える季節に振り返る、『春の鎌倉小旅行』。
前日と当日早朝の豪雨により、どうなることかと心配いたしました。留学生の笑顔とテンションは
最高でした！（詳細は9ページ以降をご覧ください。）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 3.	2. ご挨拶
Page 4.	3. 事業報告と事業計画(案)
	3-1 平成21年度事業報告
	3-2 平成22年度事業計画(案)
	3-3 平成21年度一般会計報告と平成22年度予算(案)
	3-4 平成21年度特別会計報告
Page 9.	4. 活動報告
	4-1 鎌倉見学
	4-2 くらやみ祭り
	4-3 バザー報告
Page 12.	5. ホームビジット&ホームステイ
Page 14.	6. 留学生の声
Page 15.	7. 会員の声
Page 19.	8. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

ルースとの出会いー人生の贈り物

東京外国語大学前学長
池端 雪浦

先日、ある出版社の仕事で、アジア研究者としての自分の半生を振り返る機会があった。普段の生活ではすっかり忘れていたことを丹念に掘り起こし記録していくうちに、若い時期の留学が私の研究生生活ではとても大きな意味をもっていることに改めて気づかされた。いや研究ばかりではない。私の人生そのものが幾度かの留学生活を経て豊かな彩りをもつようになっていたのだ。なかでも最初の留学はその後の人生にかけがえのない贈り物となった。

私は大学院へ入学した1963年の8月から64年の3月にかけて、はじめてフィリピンへ留学した。当時は1ドル＝360円の固定為替相場制の時代で、日本からの留学は行き先がどこであれ難しかった。半年という短い期間ではあったが、大学院入学早々に留学のチャンスを得たのは幸運というべきだった。もっとも、こ

の留学はいまで言う留学とは少しちがっていた。私はユネスコのフェローという身分でマニラの古文書館の現状調査をしてくる任務を課せられていたからだ。

だが、マニラに到着して、東京で思い描いた幻想は一気に吹き飛んだ。第2次大戦が終結して18年が経過していたにもかかわらず、日本占領期最終段階で展開されたマニラ戦の残骸が、街のあちこちに放置されたままになっていた。人々の反日感情はそれに倍して強かった。私はこれから始まるマニラの生活に覚悟を新たにしなければならなかった。私の最初の問題は下宿だった。フィリピンのユネスコ国内委員会が用意してくれた下宿は、当時の繁華街エルミタにあるスペイン人経営の高給下宿カーサ・ペンションだった。下宿人は国際機関や米国資本の会社などに勤める高給サラリーマンで、3度の食事はフルコースのすばらしいものだったが、フィリピンに行ったら日本では高価で食べられないバナナを思う存分食べたいと思っていた貧乏学生の私には万事がもったいなくて馴染めなかったし、庶民生活とは余りにかけ離れていた。ある日、路上のバナナ売りから1房のバナナを買ってきて部屋でこっそり食べていたら、メイドさんにみつきり、主人のセニョリタから、うちの下宿人がそんなはしたないことをしてはいけませんとこっぴどく叱られた。

初めての国でこれからの生活をどう組み立てていったらいいのか思い悩んでいる時、フィリピン国際親善協会(PIFO)の親睦会があるとの知らせを受けた。そこで出会った一人の中年の婦人、ルース・パガドゥアンが、私の留学生生活を一気に躍動的な日々へと転換してくれたのだ。ルースは私がカーサ・ペンションに住んでいることを知ると、しばらく考えた後、「せっかくフィリピンへ来たのに残念ね。関係者との交渉はすべて私がしてあげますから、この会が終わったら、とりあえず私の家に引っ越せるよう荷物をまとめておいて。」と言ってその場を去った。こうしてその日の夕方、私はルースとともに彼女の家へと向かったのだった。

ルースの家、いやルースのコンパウンドは、私にとってフィリピン社会の人間関係や人々の絆、そして思いを理解するためのイニシエーションの場だった。ルースは女ばかりの4人兄弟の長女で、4人の姉妹がそれぞれコンパウンドを取り囲むようにして家を建て生活していた。長女で独身のルースの家には母親と、戦争

未亡人の2番目の妹エステラ一家が同居し、3番目の妹ブリンと4番目のイネの一家はご主人も健在で車もあったので、それぞれ道路に面した一角に大きめの家を構えていた。エステラには農学部を出て研究所に勤める長女と医学生の次女がおり、ブリンには2男2女が、またイネには小学生のウィニーを頭に4人の娘がいた。4姉妹の子供の数は決して多くはなかったが、コンパウンドには4姉妹の家族を頼って勉学や仕事を求めて田舎から出てくる親戚の若者たちが、いつも何人か居候しており、若いメイドさんも沢山いたので、住人の名前を覚えるのは若い私にもひと苦労だった。

ルースは国家公務員で、当時は公務員採用試験を担当する部署に勤務していたが、1年間イギリスに研修留学をした経験があり、のちにジャカルタのフィリピン大使館で文化担当官として勤務したこともある才媛だった。だが、私は家で見るルースのスケールだけで、もう十分に圧倒されていた。彼女はコンパウンド内で生じるありとあらゆる問題を掌握し解決する文字通り一家の長だった。細身でひつつめ髪、自分で裁断したセンスのいいワンピースを着て、どんな相談事にも根気よく耳を傾けた。彼女が声高に激昂するのを見たことがない。土日の休みには絵筆を取り、頼まれれば洋服のデザインや裁断にも腕をふるった。大の読書家で文学・芸術・国際政治関係の本を好んで読んでいた。

活気溢れるコンパウンドの生活のなかで私を悩ませたのは、ユネスコのフェローということで近隣の小・中学校から講演の依頼がしばしばあったことである。だがルースは、私の原稿を推敲し、コンパウンドの子供たちの前で私にスピーチの練習をさせることを楽しみにしていた。話は飛ぶが、1998年8月に私はフィリピン大学から人文学の名誉博士号を贈られた。その式典の家族席に、ルースら姉妹を招待した。ルースはすでに80代半ばを越えていたが、しっかりした足取りで出席してくれた。名誉学位記とフィリピン大学の礼服(トガ)一式の授与が終わり、答礼のスピーチをするために中央の演壇に向かおうとした時、突然私の脳裏に、遠い日、ルースから受けたスピーチの練習風景が甦った。そのようにして、私はこの地で育まれてきたのだった。

先月(5月)の29日、イネの長女ウィニーが倉敷のわが家を訪ねてくれた。彼女らはいまルースたちの世代の介護に忙しい。「だから、あなたが倉敷に転居して慣れない身内の介護に当たっていることを、皆が心配しているのよ。」とウィニーは言った。ルースは昨年半ばから意識が混濁するようになった。だが意識がはっきりしているときは、人生の楽しかった時のことばかり話してくれるのだという。私たちは夜更けまで、ルースとともに過ごした楽しい、そしてどこか凜とした日々を語り続けた。

2. ご挨拶

会員増は活動の要！

会長 中嶋 洋子

新緑の美しい季節になりました。会員の皆様、お変わりなくお過ごしですか？

留学生支援の会も新年度の活動がいよいよ始まります。活動の内容については、5～7ページの事業計画(案)や予算(案)をご覧いただきたいと思います。毎年のこととして総会をもたない当会は、次号会報発行までの期間に会員の皆様のご異議、ご要望が特になければ(案)ではなく、決定とさせていただきます。そうでない場合には、途中でも軌道修正をしてみたいです。

ここでは例年と多少違う、いくつかの新しい状況をお知らせします。

1) 424名もの方々が新しくご入会くださいました。心から御礼を申し上げます。大学側のご配慮にも感謝しなければなりません。合格者通知の封筒の中に、留学生支援の会としての入会勧誘のお知らせも入れてくださったことに大きな理由があったのです。また、入学式当日にも私が説明、勧誘をいたしました。すでにその時点で300名を超える入会者があったこともあり、私は特に、幹事(合格した生徒さんの若い保護者の方がた)になっていただきたいと訴えましたところ、5名の方が新しく幹事になってくださいました。現在の幹事は、私を含めいささか高齢化が進んでいることも

あり、本当に心強く、会の今後に期待すること大です。
2) 会員の増加により、会費収入も大分多くなり(5年間会費納入のなかった会員で退会を希望する方の数をさし引いてもなお)そのために新しく2つの事業を考えました。1つは、会として奨学金を出すほどにはまだ至っていませんが、(1)博士論文の刊行費補助、(2)会の名簿管理その他の仕事補助のための留学生アルバイト雇用、などを試みていきたいと思っています。
3) 2010 年度留学生地域交流事業助成金(日本学生支援機構が{財}中島記念国際交流財団から委託された資金による)を申請、採用されました。これによる助成金額は1,536,000円です。今までほとんどボランティア事業だった地域交流事業に関して謝金、交通費の一部、材料費などがここから支払われることになります。申請のための事務手続きは実にやっかいなことでした。そしてそのための会計事務も大きな仕事になりますが、新しい幹事の方が快く引き受けてくださいました。

最後に、私的なことではありますが、皆様にこの場をお借りしてお知らせしたいことがあります。

この5月に、私の娘との共著を上梓いたしました。タイトルは、『高校生留学のすすめ—これからの地球の歩き方』、教育評論社から出版されました。内容は、娘(中嶋亜純)が高校時代の1年間のアメリカ留学体験を、私がわが家に迎えた多くの留学生のホストファミリーとしての経験を書いたものです。(ちなみに、当会のこの会報も、毎号とも私と娘との編集・合作です)



私の子どもたち4人がみな高校生留学をしており、感受性の豊かな高校生時代の留学が、その後の人生に強烈な影響を与えていることを、私は実感しています。

若者たちの内向き志向がとりざたされている現在、外に向かって、世界に向かって異文化交流することの重要性を感じています。

ご興味のある方は、どうぞぜひご覧いただきたいと思います。大手書店、アマゾンなどで買い求めることができます。

REPORT

3. 事業報告と事業計画(案)

3-1 平成21年度事業報告

A. 生活支援事業

1. 生活用品、図書を支給するバザーを開催しました。
 - 1) 春期バザー
日 時 4月27日～30日
場 所 国際交流会館2号館交流ホール
来場者 約250名
 - 2) 秋期バザー
日 時 10月20日～23日
場 所 国際交流会館2号館交流ホール
来場者 200名
2. 自転車を貸し出しました。
貸し出し用自転車数 113 台
貸し出し延べ件数 92件
3. 緊急貸付金を貸付しました。
「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等で困窮している留学生に貸付。
基金総額 5,747,920 円 貸付総額 5,367,200 円
来年度当初貸付可能額 380,720 円
4. 入院見舞金を贈りました。
入院 5 日以上の上留学1名に、見舞金を(一万円)贈りました。
5. 留学生からの色々な相談に応じました。
住居、アルバイト、日本語習得、大学院入試等

B. 友好親善事業

1. 国際交流の夕べ(留学生交流会)を大学と共催しました。
平成21年12月18日 大学会館
参加者 留学生150名、日本人学生・教職員50名、幹事等 30名
2. 日本人学生と留学生の交流事業(各国の伝統的なお茶とお菓子の紹介)を大学と共催しました。
第1回 平成21年7月24日 留学生日本語教育センター交流室
紹介した国 台湾、ネパール、ノルウェー
参加者 留学生50名、日本人学生50名、幹事その他30名
第2回 22年1月22日 国際交流会館2号館交流室
紹介した国 オーストラリア、グアテマラ、スロバキア

参加者 留学生60名、日本人学生60名、幹事・その他40名

3. 留学生と小学生の国際交流会を小学生国際交流支援の会と共催しました。
平成22年11月21日 国際交流会館2号館交流室
参加者 留学生6名、小学生10家族
4. ホームビジット・ホームステイを受け入れていただきました。
受け入れて頂いた会員 4名
訪問した留学生 5名
5. 中嶋会長宅での新年会に留学生が招待されました。
平成22年1月2日 参加者70名
6. 府中市地域文化祭に参加しました。
平成21年10月25日 紅葉ガ丘文化センター
参加者 留学生24名、日本人学生5名、幹事2名

C. 相互理解事業

1. 日本理解事業
 - 1) 日本文化を見学・鑑賞しました。
 - ①国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」と懇親茶話会を開きました。
平成21年6月14日 三宅坂国立劇場
参加者 留学生35名 日本人学生6名 幹事5名
 - ②国会議事堂・江戸東京博物館の見学とちゃんこ鍋を囲み懇親会をもちました。
平成21年11月29日
参加者 留学生37名 日本人学生10名 幹事6名
 - ③鎌倉の史跡見学日帰り旅行を実施しました。
平成22年3月21日
参加者 留学生35名 日本人学生5名 その他10名
鎌倉在住の会員の方がたにご案内・ご説明いただきました。
 - ④大国魂神社くらやみ祭へ参加しました。
平成20年5月4日
参加者 留学生19名、日本人学生6名 幹事2名

- 2) 日本文化を体験しました。
 - ①「日本文化体験教室」を大学と共催
振り袖着付け、華道、茶道、将棋・囲碁
折り紙・和紙人形・墨絵
平成21年12月18日 学生会館等
参加者 留学生120人
 - ②日本語広場の開設
講師 3名 受講者 7名 クラス数3
 - ③各種文化体験教室を開設
華道、茶道、書道、囲碁、ギター、尺八
場所 支援の会連絡室・交流ホール

④七夕茶会

平成21年7月7日

場所 学生会館茶室

参加者 留学生48名、日本人学生29名 幹事

その他 24 名

2. 国際理解事業

地元の小中学校の国際理解教育へ留学生を派遣しました。

住吉小学校	派遣留学生 5 名
南白糸台小学校	派遣留学生 8 名
武蔵野台小学校	派遣留学生 6 名
狛江第一小学校	派遣留学生 15 名
府中第 2 中学校	派遣留学生 5 名
府中第 7 中学校	派遣留学生 8 名
調布中学校	派遣留学生 4 名
目黒区立第十中学校	派遣留学生 4 名
町田市立真光寺中学校	派遣留学生 2 名

D. 広報その他の事業

1. 支援の会「会報」を発行しました。

第31号 平成21年 6月

第32号 平成21年 11月

第33号 平成21年 2月

2. ホームページを運営しました。

内容は、イベントの際に更新

3. 色々な機会に会員募集活動を行いました。

4. 幹事会を開催し、行事の企画・運営を相談しました。

第1回 平成21年4月25日

第2回 5月 9日

第3回 6月13日

第4回 7月19日

第5回 10月18日

第6回 11月15日

第7回 12月12日

第8回 平成22年1月17日

第9回 2月21日

第10回 3月7日

5. 会員数 1,216名（平成22年5月31日現在）

3-2 平成22年度事業計画(案)

A. 生活支援事業

1. 生活用品・図書のバザー

春期 4月26日～27日、秋期 10月

2. 自転車の貸し出し

大学等からの払い下げ自転車を修理し、順繰り回転で貸し出す。

3. 緊急貸付金の貸与

緊急貸付金を回転運用して、授業料等緊急に必要なとする経費のために貸与する。

一件 10万まで

3. 留学生の支援の会活動アシスタントに留学生を採用

4. 入院見舞金

入院5日以上 1人 1万円

5. 博士論文印刷費補助

1人5万円、5名分

6. 生活その他の相談

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業「国際交流のタベ」（留学生交流懇談会）を大学と共催

12月

2. 日本人学生と留学生の交流事業

一留学生による各国の伝統的なお茶とお菓子の紹介を通じて一

年に2回

3. 会員の協力によるホームステイ・ホームビジットの受け入れ

4. 会員のご好意による交流行事

C. 相互理解事業

1. 日本理解事業

1) 日本文化の見学・鑑賞

①歌舞伎鑑賞と茶話会

7月4日(日)国立劇場

②国会議事堂・江戸東京博物館の見学と相撲ちゃんこ鍋会食

11月

③鎌倉史跡見学

平成23年3月

④地元のお祭り等文化的行事への参加

2) 日本文化体験

①大学と共催の国際交流事業「日本文化体験教室」に協力

12月

②日本語広場の開催

③各種文化体験教室の開催(国際交流会館2号館交流ホール)

華道、茶道、書道、囲碁、尺八、ギター

④七夕茶会

7月

2. 国際理解事業

地元の小・中学校の国際理解教育へ講師
として留学生を派遣

D. 広報その他の事業

1. 『支援の会会報』誌の発行

第34号(6月)、第35号(11月)、
第36号(平成23年2月)

2. ホームページの運営

3. 会員募集のための諸活動

大学新入生入学式等

東外大に集う志の高い留学生は、皆様ひとりひとりの協力により、日本で体験を重ね、成長していくことでしょう。本年度の活動もますます充実したものとなるよう、励んでいきたいと思っております。



3-3 資料——会計報告と予算(案)

一般会計収支決算 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

《収入の部》

科目	項目	21年度予算額	決算額	摘要
前年度繰越金		2,306,944	2,306,944	
会費	一般会員	1,350,000	2,535,000	3,000円×845名 但し348名1,044,000円は22年度分前受金 前受金差引後497名1,491,000円
	協賛会員	120,000	220,000	20,000円×11名 但し2名40,000円は22年度分前受金 前受金差引後 180,000円
寄付	一般	500,000	615,000	但し68,000円は22年度分前受金 前受金差引後547,000 円
	緊急貸付基金	300,000	28,000	
その他	バザー等	200,000	204,740	バザー収益金・国際交流のタペカンパ・行事参加費
	利息	3,000	759	
収入の部合計(A)		4,779,944	5,910,443	但し1,152,000円は22年度分前受金 前受金差引後4,758,443円

《支出の部》

科目	項目	21年度予算額	決算額	摘要
活動費 (友好親善事業 ・相互理解事業)	国際交流行事共催費	400,000	360,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	150,000	118,580	鎌倉見学
	日本文化見学費	250,000	253,229	歌舞伎見学、国会議事堂・江戸東京博物館見学
	日本文化体験費	150,000	70,243	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター・日本語広場他
	日本人学生との交流会	200,000	99,594	茶・菓子・料理等
	その他の交流活動費	50,000	38,114	国際理解教育交通費・バザーアルバイト
	自転車貸出事業	100,000	123,451	自転車修理費・防犯登録料
活動費 (生活支援事業)	入院補助金	70,000	-	
	活動費小計(a)	1,370,000	1,063,211	
運営費	ホームページ管理費	170,000	163,764	ホームページ管理費10,000円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	-	
	備品費	30,000	10,605	ネームカード
	通信費	250,000	261,265	会報発送費等
	印刷費	200,000	535,615	会報・葉・払込取扱票・封筒等印刷費
	会議費	5,000	-	
	連絡室運営費	10,000	18,023	
	郵便振替手数料	40,000	81,570	但し34,990円は22年度分前払金 前払金差引後46,580円
	その他	-	100,000	異文化交流施設寄付
	運営費小計(b)	735,000	1,170,842	但し34,990円は22年度分前払金 前払金差引後1,035,852円
予備費	(c)	100,000	-	
繰入金	緊急貸付基金(d)	300,000	407,270	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	2,505,000	2,641,323	但し34,990円は22年度分前払金 前払金差引後2,606,333円
次年度繰越金 (A)-(B)		2,274,944	3,269,120	但し22年度分前受金前払金差引後2,152,110円

(A)-(B) = 5,910,443-2,641,323 = 3,269,120円は、平成22年度へ繰越

平成 22 年 6 月 4 日

会計

留学生支援の会幹事

阿部 やよい

会計監査報告

東京外国語大学留学生支援の会 殿

2009 年度会計監査について

このことについて、監査したところ、決算報告の通り相違ありませんので報告いたします。

平成 22 年 6 月 11 日

東京外国語大学留学生支援の会顧問(外国語大学大学院教授)

会計監査 川口 健一

平成 22 年度 一般会計予算（案）

《収入の部》

科目	項目	22年度予算額	備考
前年度繰越金		3,269,120	
会費	一般会員	1,656,000	3,000円×900名 会員数約1200名 但し1,044,000円前受済
	協賛会員	160,000	20,000円×10名 但し40,000円前受済
寄付	一般	432,000	但し68,000円前受済
	緊急貸付基金	100,000	
助成金	中島財団助成金	1,536,000	(財)中島記念国際交流財団助成
その他	バザー等	200,000	バザー収益・国際交流のタベカンパ・行事参加費
	利息	1,000	
収入の部合計(A)		7,354,120	但し1,152,000円前受済

《支出の部》

科目	項目	22年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	400,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	150,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	250,000	歌舞伎見学、国会議事堂・江戸東京博物館見学
	日本文化体験費	776,000	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター・日本語広場
	日本人学生との交流会	200,000	茶・菓子等
	その他の交流活動費	926,210	地域の諸行事参加等支援・国際理解教育交通費・ホームステイ
	活動費小計(a)	3,172,210	
活動費 (生活支援事業)	自転車貸出事業	150,000	自転車修理費・防犯登録料
	補助金	320,000	入院補助、博士論文印刷補助
運営費	ホームページ管理費	170,000	ホームページ管理費10,000円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	
	備品費	30,000	
	通信費	320,000	会報発送費
	印刷費	283,790	会報印刷費・コピー代
	会議費	5,000	
	連絡室運営費	10,000	
	郵便振替手数料	50,010	但し34,990円前払済
	その他	200,000	アルバイト雇用費、粗大ごみ処理費・倉庫消毒費
	運営費小計(b)	1,098,800	但し34,990円前払済
	予備費(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金(d)	900,000	
支出の部の合計	(a)+(b)+(c)+(d)	5,271,010	
次年度繰越金 (A)-(B)		2,083,110	

3-4 平成21年度特別会計（緊急貸付基金）報告

1	前期基金総額	5,340,750
2	当期基金積み増し額 (一般会計からの繰り入れ 300,000+バザー売上げ金 107,170)	407,170
3	当期基金総額 (1 + 2)	5,747,920
4	前期末貸付残額	3,287,200
5	今期貸付額 (授業料等 10 件、生活費 4 件、医療費 5 件、引越し等 2 件、研究調査旅費 4 件、緊急帰国費 1 件)	2,080,000
6	期末貸付残額 (4 + 5)	5,367,200
7	繰越貸付残額 (3 - 6)	380,720
8	損金	520,000
9	次年度基金総額 (3 - 8)	5,227,000

(平成21年4月～平成22年3月) 単位：円

今年度は、世界的な不況のために、留学生達の財政状況が悪化し、これまで以上に返済が長引いている留学生が多くなっています。貸付金を借りていた留学生の中には、親の破産などにより、仕送りを受けられなくなっただけでなく、家計を助けるために帰国する学生も出てきて、学期末の3月までに復学できず除籍になった学生も何人か出てきました。その他、急病のために亡くなり、除籍になった留学生もいます。私達は、これまで貸付金の返済に滞りが無いよう、連絡と催促に努めて参りましたが、今年度も貸付運用指針に基づき、回収がきわめて困難と思える 520,000 円について、損金処理をすることになりました。(幹事 梅田 記)

4. 活動報告

4-1 鎌倉見学

夜半から明け方にかけての暴風による電車の不通

もあり、集合時間にやきもきさせられた。今年は多磨駅・飛田給駅の時刻表も知らせてあったのに相変わらず集合時間ぎりぎりか、遅れてやっと集まり、出発の電車に飛び乗るはめとなった。

やがて天気も晴天となり、散策には良い一日となりました。

藤沢駅では鎌倉在住の会員の方々の出迎えを受け、スケジュール表が全員に配られた。

江ノ電乗車の途中で海が見えると、海を知らないモンゴルの学生などは窓にへばりつき写真を撮るなど、喜んでいました。鎌倉駅で下車、鶴岡八幡宮参観、その後お楽しみの昼食をレストラン静久でいただきました。

八幡宮では若宮大路を通り、鳥居をくぐった所で鎌倉の会員から説明を受けた。丁度、大安吉日で、着物姿の花婿、花嫁姿での挙式と、人力車での相乗り何組もあった。

また、こどもの百日参りも何組もあり、日本の家族風景を知ることが出来た。

八幡宮の石段脇の大銀杏が10日の強風で折れてしまったので、その姿に日本人幹事たちはショックを受けていましたが、留学生はその在りし日の大木の銀杏、その歴史を知らないのでは只話を聞いているようでした。

続いて建長寺から切り通しを通り、鎌倉駅まで裏道を散策した。今年の記念写真は、後で見学した長谷寺の門前で撮りました。長谷寺では観音様を拝観し、相模湾を眺めたり、花々を愛でたり、洞窟内の仏めぐりをした。小道を歩き、長谷寺駅で解散とした。その後の自由時間は、遅めの時間だったせいか、誰も他の場所には行かず、皆同じ電車で帰路に着いた。

(幹事 杉森 記)



(↑長谷寺での集合写真 “はい、笑って!”)

後日、鎌倉在住の会員の中心となって、毎年鎌倉見学のためにご尽力いただいている野中千恵子様から中嶋宛に次のようなメールが届きました。(中嶋)

当日(21日)は無事に済み、ありがとうございました。荒れた天気のアトしまつを早朝からなさってさぞお疲れになったことだろうと思います。スタッフの方々の熱心なお働きぶりにはいつも感銘を受けます。

わたしどもは多少年齢によるくたびれは在りますが、まだまだできることはしていきたいという思いを新たにいたしました。

鎌倉見学

～母国を離れ久しぶりに感じた温かさ～

日本課程3年 ユンソンミ
(韓国)

2010年3月21日、午前8時半。場所は新宿西口。東京外国語大学の留学生約30名と日本人学生たち、留学生支援の会の方々がここに集まっている。前日のひどい天気であまり眠れなかったせいか、あくびを連発する人もいたが、全員の顔からは充分わくわく感が伝わってくる。いよいよ出発！ 私たちはこれから千年の歴史を誇る武士の都、鎌倉へ行く。

電車に乗って約2時間で着いた鎌倉駅。そこでは1日間鎌倉を案内してくれる方々が私たちを迎えてくれた。早速、案内の方々の引率で鎌倉見学をスタート！ 本日の予定は鶴岡八幡宮、建長寺、高德院大仏、長谷寺の順である。

天気もよし、みんなの顔もよし！ 明るい雰囲気の中で、最初向かったところは、鶴岡八幡宮。「鎌倉を代表する観光名所」という言葉通り、境内はその広さはもちろん、本宮や舞殿、鳥居などたくさんの重要歴史文化遺産が置かれていた。興味深かったのは、境内で結婚式が約20分ごとに開かれていたこと。このような日本の伝統文化はなかなか見る機会がなく、特に伝統衣装を着ている新郎新婦の姿を間近で見ることができたのはとても嬉しいことだった。次に、八幡宮の入り口ではアーチ型の橋を見かけることができたが、案内の方によると、橋を渡ることによって人間は神に

より近くなることができる。その時、急がずにゆっくり行くようにするため橋がこのようになっているそうだ。残念ながら、八幡宮の真正面にある太鼓橋は現在、通行禁止になっていた。

この日は、短い距離は案内の方々の引率で歩いて移動するのがルールだった。一日中ずっと歩くなんて無理！ と最初は思ったが、他の国から来た留学生たちや、留学生支援会の方々、鎌倉案内の方々と一緒に歩く中で勉強や、日本の生活などについて色々とお話を交わすことができ、むしろ歩くことが楽しかった。

また、建長寺の見学の後、駅に向う途中、亀が谷切通しという急な坂道を登ったり、下ったりしたことが記憶に残る。ここは鎌倉時代の入り口の一つで、高いところに入り口を設置することで敵から身を守ろうとした祖先の工夫がよくわかる場所だった。このような場所は案内の方なしにはとても来られない場所であり、案内の方の説明はわかりやすく、面白かったのでつい「へーーーーー」と感動してしまったりした。

次に向かったところは、高德院大仏。ちょうど3時くらいで太陽がまぶしくて、この巨大な大仏様を見上げることは大変難しいことだった。大仏様は、元々全身が金箔だったそうだが、時代と共に少しずつはがれてしまい、今は右側の目の横あたりにしかその事実が確認できなかった。大仏様の左側にある小学校で作って奉げたという大仏様の靴が展示されていたが、小さな子供達が協力してこんな大きい靴が作られたなんて、考えるだけでも胸がいっぱいになった。

大仏様にさよならを告げ、向かった先は、本日の最後のコース、長谷寺だった。色々なお花や植物などで美しい日本庭園になっていた入り口を堪能しながら上に登って行くと、見晴台から湘南の海が見られる。ロマンチックなその景色に私たちは目を奪われてしまった。しばらくしてから降り行ったら、そこにはたくさんのお地藏様が私たちを迎えてくれたが、なぜかその優しい笑顔はとても名残惜しそうに見えた。

空が少しずつ暗くなっていく頃、長谷寺を出て集まった私たち全員は「今日一日会えて嬉しかった」と「一緒に歩いてくれてありがとう」と最後の挨拶を交わした。

鎌倉での一日。一日という大変短い時間だったが、

日本の歴史と文化がよく理解できた一日だった。また、留学生同士、あるいは日本人学生との交流も活発にできた意味のある一日だった。しかし、何よりも、私たちのためにこのようなすばらしい旅行を企画し、旅行の間、友達のように、家族のようにずっとそばにしながら面倒をみてくれた留学生支援会の方々、鎌倉案内の方々の存在は今回の旅行でもらった一番大きな感動であろう。みんなと歩いた鎌倉。母国を離れ、久しぶりに感じた温かさに感謝をしたい。



(↑ 鶴岡八幡宮への参道、こんな風にTUFSプラカードを持って進みます。GO-GO-！)

4-2 大国魂神社くらやみ祭り

無意識の文化を意識的にすること

ラオス語専攻3年 長谷川 綾

今回留学生支援の会主催のくらやみ祭りめぐりに参加させていただいて、くらやみ祭りを楽しむことはもちろん、留学生との交流も活発に行うことができました。去年も留学生を誘ってくらやみ祭りに出かけたのですが、その時は私自身日本のお祭り特有の「神輿」や「山車」などにういて詳しく知らなかったので、留学生に曖昧な説明しかできず歯がゆい思いをしました。しかし、今回は府中市の観光協会の方が歴史や謂れについて境内などを回りながら教えてくださったので、恥ずかしい思いをせずにすみました。

留学生と一緒に回ってみると、私たちが見過ごして

しまう日本らしさというものを気付かせてくれます。日本人だけで祭りを回っていたら、みこしの独特さやだしの色鮮やかさにも気付かなかったと思います。海外旅行に出かけた時など、外国人に日本の文化について質問されてよく困ることがあります。それは私たち日本人は生まれてからずっと触れてきた日本文化を無意識的に理解している部分が多いからだと思います。

今回の体験はその無意識の文化を意識的にすることができると貴重な体験だったと思います。



(↑ 花の万灯で記念撮影。興味津々で、興奮の笑顔。)

4-3 4月期バザー

2010年春期バザーへのご協力 ありがとうございました

去る4月26日(月)、27日(火)の2日間開催しました留学生支援のためのバザーには、様々な品物をご寄付いただき、ありがとうございました。書籍、各種辞書、電気釜、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、空気清浄器、トースター等の電気製品、寝具、衣類、食器、台所用品、バスタオル、石鹸、洗剤などの日用品、缶詰、お米等の食料品などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。その中には、毎回人気のある電気釜、寝具類がたくさんありました。

今回は、例年の留学生の集まり具合を鑑みて、2日間のみとしました。両日とも、開始と同時に大勢の留学生が押し寄せ、目当ての品物を求めて大賑わいでした。今回も原則として、電気製品 500 円、他はすべて 100 円(小さな物はまとめて)、書籍は無料としまし

た。毎回のことで、辞書、電気製品(特に電気釜)、寝具類は人気があり、ほとんどが2日間でなくなりました。バザーに集まる大半の留学生が来日したばかりでしたので、様々な日用品も喜ばれました。一日5点までとしましたが、家族のいる留学生たちは、家族と一緒に何度も来て必要なものを楽しみながら選んで、たくさん品物を持って帰っていました。

今回の特徴として、書籍の中に子供用の歴史小説や児童文学書が多くありましたが、ほとんどなくなりました。また、日本的なもの、特に日本人形、扇子、風呂敷等も、帰国の時のおみやげにするためか(?)人気がありました。

留学生たちは、いい品物を安価で得られて嬉しそうでした。支援の会にありがとう!これからもよろしく!と、口々に言って帰って行きました。

残った冬用の衣類や食器は、秋期のバザー用に倉庫に保管しておくことにしました。

バザーの収益金は、44,215円でした。

* 毎回、送料もいわず沢山の品物を提供していただいた会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

EXPERIENCE

5. ホームビジット&ホームステイ

Matsumoto Home-stay

Master Student, Peace and Conflict Studies
Maria Elisa PINTO
(Colombia)

Since I came to Japan, I had always wanted to have the experience of living with a Japanese family. In my case, it has become somehow difficult to get to know more about the Japanese culture and society since I have a minimum knowledge of Japanese. Thus, having this opportunity for a couple of days was going to be an excellent chance to do so.

From the first email I received from my

host mother, Yukiko san, I knew that this was going to be an amazing experience. She was very welcoming from the beginning and described to me briefly the members of my new host family, their occupations, and their hobbies, so I got a previous idea of my host-sisters and host father before arriving to spend 5 wonderful days at their home in Matsumoto. Certainly, Yukiko-san welcomed me at her place like another daughter and the whole family made me feel that way. Although her two daughters, Akane and Ami, live in Tokyo, they both came to spend some days with me, which was an incredible gesture that I really appreciate.

In general, my expectations were completely fulfilled and even more. During the home-stay I did many different and interesting activities. We visited the impressive castle of Matsumoto and the Museum of Contemporary Art where the work of the famous artist Yayoi Kusama was exhibited. We also went to the surroundings of Matsumoto where we visited some Wasabi plantations and enjoyed a beautiful view composed by a chain of mountains with snow on the top; it was absolutely beautiful. We also had very delicious Japanese food like sukiyaki (with the renowned Kobe beef); sashimi, sushi, and yakisoba. But most of all, we had very interesting and pleasant chats where we got to know each other, as well as our own cultures and traditions.

I would really recommend this home-stay experience. For me, it was not only about knowing the Japanese culture and society through living with a Japanese family; most of all, it was the beginning of a lasting friendship with very special persons that made me feel at home.



忘れられない沼津のお寺のホームステイ

日研生 サリャモア・ユリア
(ウクライナ)

先週 2 月 25 日から 3 月 1 日まで静岡県にある沼津のお寺にホームステイに行った。長興寺というお寺である。そこで松下和尚さん、奥さんの真弓さんとお弟子の宗樹(そうじゅ)さんと四日間を過ごした。それは忘れられない四日間であった。

お寺はとても広い個人と公衆の部分からなっている建物である。庭園に囲まれて、とてもきれいなところである。私は茶室に泊まらせていただいたので、伝統的な日本の家を体験した。

2 月 26 日、和尚さん、真弓さんと宗樹さんと一緒に隣の二人のお祖母さんの家にどうやって神棚と仏壇が家にあるかを見学に行った。お祖母さんは二人ともとても優しく、親切に自分の社と仏壇を見せてくださって、お茶を飲みながら、いろいろ自分の家族と日常的な習慣について話してくださった。そして、仏具店に神道と仏教に関する商品を見に行った。その日、プレゼントをたくさんいただいた。

2 月 27 日、和尚さんと宗樹さんと一緒に戸田という町にドライブした。行く途中に、真由美さんのみかんを育てる友達のところで止まって、富士山の写真をたくさん見た。富士山とわさびの写真を二枚もらった。戸田は 150 年前にロシア人が津波で船を壊れられて、日本の人に助けってもらって、一緒に初めての日本の洋式船を造船したことで有名である。3 年前にロシアの作家のその出来事についての本を読んだので、熱心に戸田へ行きたくて、和尚さんに行かせていただいた。戸田では、造船博物館と造船場を訪ねた。その後、新鮮な海の幸で有名な戸田のレストランでおいしい昼ご飯を食べた。戸田の後で、沼津の新聞社「沼津朝日」へ行って、記者さんの質問に応じて、いろいろ自分の戸田と沼津の印象と自分の生活について話した。とても面白い体験であった。新聞社にインタビューをされるのは初めてであった。記者さんに戸田で造った塩をいただいた。夜は、和尚さんにレポートについていろいろ教えていただいた。レポートのテーマは「現代日本における神社とお寺の意味」なので、毎夜面白い大切なことをたくさん教えていただいた。アド

バイスをたくさんいただいた。

2 月 28 日は雨がたくさん降った。それで、修善寺の旅行をやめて、お寺にいた。朝 7 時から 9 時まで、坐禅を体験した。胡坐を組みにくかったので、足がとても痛くなった。でも、面白い体験であった。座禅会の人に質問をたくさんされた。とても面白い考えさせる質問だった。和尚さんはとても答えを助けてくださった。そのあと、メモリアルサービス(法事)を見に行った。昼ご飯の後で、真由美さんと一緒にウクライナ料理のボルシチを作った。とても楽しかった。真由美さんにちゃんとレシピを書いていただいた。その後、いいことに晴れたので、和尚さんと宗樹さんと一緒に三島大社へ行った。入り口の隣でもう桜が美しく咲いていた。三島大社はとても大きいきれいな神社である。中に三島についてビデオを見たり、写真を撮ったりした。和尚さんは写真をたくさん撮ってくださった。写真をよく撮れる。そして鹿にエサを食べさせた。その後で、富士山からの泉が出る「柿田川公園」へ行った。とても信じられないきれいな真っ青な水だった。

3 月 1 日、晴れで、初めて富士山は見えた。本当に素晴らしい山である。何回見ても、飽きられない山である。その日、和尚さんと宗樹さんと一緒に熱海のMOA美術館へ行った。美術館が山腹に位置しているので、そこからとてもきれいな森、海と町の景色が見えた。美術館の作品について学芸員の泉山さんに説明されていた。案外に大きい美術館で、東洋の様々な作品で豊かである。ちょうど特別展のときに来たので、金の茶室、藤の花瓶のほか、紅白梅の屏風などの国宝を見ることができた。

沼津のお寺のホームステイは素晴らしい体験だった。一週間ですることが四日間ですることがする。たくさん見物したり、体験したりすることによって、日本の日常的生活がわかったと思う。この旅行によって、日本が近くなったと感じられている。とても優しく親切な人に会えて、嬉しく思う。私は和尚さんと真弓さんに娘のように親切にさせていただいた。一番印象的なのは和尚さん自体である。とても優しい創造力に満ちた元気な人である。和尚さんのおかげで、有効に時間を使うことができた。それだから、和尚さん、真弓さん、宗樹さんと留学生支援の会にとっても感謝する。本当にどうもありがとうございました。機会があったら、

ぜひもう一度沼津のお寺に行きたいと思う。その旅行を全然忘れられない。



(↑住職の松下さん、ユリアさん、弟子の宗樹さん)

VOICE

6. 留学生の声

日本で勉強を通して感じ取っているもの

外国語学部研究生アハマドヒスブラー
(インドネシア)

まず、自己紹介をさせていただきます。私はアハマドヒスブラーと申します。インドネシアから参りました。東京外国語大学の留学生支援の会の梅田さんに声を掛けていただいたので、この会報に書くことを決めました。実は日本に来たばかりなので何を書けばいいのか迷っていましたが、私が書いたものは皆さんに読んでいただいて参考になれば大変嬉しく思います。

私は今年の4月から東京外国語大学で研究生として勉強しています。まだ三ヶ月しか経っていないが、この短期間にこの新しい大学で様々な経験を味わわせていただいております。初めてこの大学に来た時は雨が降っていて大変寒かったです。知り合いと友達是一人もいなくて大変寂しくてたまりませんでした。しかし、オリエンテーションで梅田さんが優しさを込めた小林一茶の俳句の話を聞かせていただいて、なんだか温かい気持ちになりました。ここできっとやさしい心を持っている人々に出会えると信じるようになりました。

日本の大学で勉強していて、少し感想を述べたいと思います。私は日本の大学で日本人の学生と一緒に勉強するのは初めてです。私が抱えている問題は多分留学生のみなさんと同じだと思います。まず、言葉の問題です。私は6年間ぐらい日本語を勉強したが、最初は授業になかなかついていけなかったのです。授業で先生の話が分からなくなって急に真っ白になることも多かったです。授業の内容はとにかく、時々授業のやり方が分からないこともあります。一番辛いのは発表の時です。レジュメをもらって、読む瞬間に目がぐるぐる回ってしまいます。意見を述べるところか内容すらも分からないのです。その結果、「もう6年間日本語を勉強しているのに」と情けない気持ちになってずっと落ち込んでいました。しかし、色々な人が応援してくれて、今はだんだん授業についていけるようになっていきます。私は同じ問題に遭う学生たちには今ひとつ断言できます。「当たって砕ける」です。どんなに分からなく苦しいことがあっても恐れずにぶつかって立ち向かえばいいです。その内にきっと問題の解決がありますから。

勉強はもちろん重要ですが、大学では教えられないこともたくさんあります。外国人の留学生は「外」から「内」に入る人間ですから日本の文化を理解することです。そこで、日本人の友達が必要です。私も最初は日本人の友達がいなかったです。しかし、三ヶ月の観察したところから学んで、日本人の学生は他人事に嘴をはさむのが嫌いだと思います。ほかの人に迷惑を掛けたがらないからです。シャイな性格に加えて「外」から来た人間である留学生にはなかなか声をかけられないのです。そこで、みんなは「外の人間」である自覚を持って行動すべきです。自分から声をかけなければなりません。日本の諺では「郷に入れば郷に従え」というのがあります。全くその通りです。私も最初は面倒だと思いましたが、ある時たまたま学校の食堂でインドネシア語辞書を使っている学生たちを見て、インドネシア語を勉強している学生だと思って声をかけることに決めました。思ったよりみんなは大歓迎してくれました。皆はネイティブに会えて感心したようです。最後は「声をかけてありがとう」と言われました。今でも時々昼休みに一緒に食べたり話したりして仲良くしています。もう一人ぼっちだと思いません。日本人の学生か

ら日本語だけではなく、若者言葉や今流行っていることなどを教えてもらって、楽しく日本の文化を知るようになりました。それらの知識は本には載っていません。また、他の方法と言えば、部活に入ればいいと思います。そこで日本人の友達もたくさんできて、さらに日本語のレベルアップできて大変楽しく充実な学生生活を送れることが保障できます。

東京外国語大学で勉強している留学生はもう一つ感謝すべきことがあります。それはこの大学の特徴とも過言ではなく、留学生支援の会です。全国の日本の大学では一番大きな留学生支援だと思います。留学生支援の会が提供しているイベントが数多くあります。学校のボランティアや日本文化教室や自転車の貸し借りまでもあります。つまり、留学生を徹底的にサポートします。残念ながら、私の留学生の友達の間でも知らない人が多いです。私はその人々に一度ぐらひは留学生支援の会の事務所に行くことを大変お勧めします。こちらにいらっしゃる方々は皆親切で温かい心を持つ人々です。いつでも留学生の悩みを聞いてくれています。私も大学の外に住んでいるから自転車を借りることができて大変助かりました。これからも中学校でボランティアとして活動を始めます。みなさん、必ず大学のオフィスの前にある掲示板を見てください。充実した活動は本当に多いので、様々な活動とイベントをお見逃しなく！

最後に、この場をお借りして少しインドネシアの大学制度を紹介したいと思います。インドネシアの大学の修学期間は日本と同じで学部は4年間で医学部は6年間です。修士課程は2年間、博士課程は3年間です。その他にも専門学校と短期大学もあります。一つの違いを挙げれば、インドネシアの大学では授業の科目はほとんど決まっています。つまり、自由に科目を選ぶことができません。日本文学課程の学生はいきなり社会学の授業に出ることはできません。日本の大学では必修科目と選択科目があるのでそこが興味深いです。ほかの分野の知識を増やすことができて大変いいと思います。また、日本の大学の施設は大変素晴らしいです。大学の図書館は夜まで開いていて、資料と論文を探すのも簡単に大学の OPAC で検索ことができます。一方、インドネシアではまだ勉強の阻止になることが多いのです。図書館は大体5時までしか

開いていなくて、研究の資料を探すのも相当苦労します。日本の学生は大変恵まれていると思います。私の国のような所では教育自体がまだ進んでいて施設が足りないのでどれほど日本の大学のような施設を望んでいます。留学生ではなくすべての学生は自分の国の発展と科学技術の進歩のためにこの機会を生かして一生懸命勉強しましょう。



VOICE

7. 会員の声

【1】お詫び

会員の方から匿名で次のようなお葉書をいただきました。前号に間にあう時期だったのですが、私(中嶋)が失念いたしました。貴重なご意見でしたのに、本当に失礼いたしました。心からお詫びを申し上げます。

前略 事務局のお仕事お疲れ様です。

会費を送らせて頂き会報で報告などを見るだけで、何かお手伝い等できることはないかと考えることがあります。

年間の行事予定と、それに必要なお手伝いなり、ボランティアの募集があれば一覧表にさせていただけるといいと思います。

この時期なら、このイベントなら、できると予定がたてられると思いますが。

また「日本語広場」とはなんですか。日本語支援でしたら、友人などにもボランティアなど希望している人がいるのですが。一会員より会報に載せて下さると助かります。 草々

A. お答えします！

1. お手伝い募集の一覧

一覧は次頁を参照いただきたくお願い申し上げます。なお、大学側との確認事項や、幹事会での決定をふまえて活動を開始しております。したがって、現時点では日時を決められないことが多々あり、随時会報を通じてご協力いただくことが多いのが現状です。スケジュールがなかなか決定しないこともありますこと、ご理解をいただきたくお願い申し上げます。

PLEASE JOIN US お手伝い募集の一覧

2. 「日本語広場」とは

留学生の家族や外国人教師とその家族の方たちと、日本語を通して交流する「場」です。もとより東外大は日本語はもちろん、いろいろな言語を専門的に教えることが目的の一つでもある大学ですから、私ども留学生支援の会としましては、留学生の家族、または外国人教師とその家族に対し、緊急に必要ながあつて日本語を学びたい人たちへの手助けをしつつ互いに交流をする、そんな「場」を「日本語広場」と称しています。ですから当会の「日本語広場」は小さい赤ちゃん連れでも参加可能なのです。「日本語教室」とは少し趣が違います。

4 月期&10 月期バザー	①4 月期バザー(今年度はすでに終了) a).バザー用品の仕分け、準備(バザー当日の前日、または前々日) b).バザー当日(2 日間) c).後始末(バザー後少なくとも1~3 日間) 上記 1 週間くらいは多くの人手が必要です。ご協力 お願い申し上げます。 ②10 月期バザー<(10 月 19 日、20 日>、(4 月期バ ザーとほぼ同様の状況)
各種イベント時のお手伝い	随時会報にてご案内、ご協力をお願いします。また随 時お問い合わせいただければ助かります。事前準備 や、当日の手伝い及び付き添い、会報用レポートの 記述、写真撮影他、荷物の運搬など雑務も多々あり ます。 <ul style="list-style-type: none">・ 国会議事堂・江戸東京博物館の見学と相撲 ちゃんこ鍋会食(11 月予定)・ 国際交流事業「国際交流の夕べ」(12 月中)・ 鎌倉史跡見学(3 月春分の日を予定)・ くらやみ祭り(毎年 5 月)・ 地元のお祭り等文化的行事への参加(未定)・ 七夕茶会(7 月 7 日前後)・ 歌舞伎鑑賞と茶話会(7 月上旬頃)
留学生と日本人学生の交流会	年 2 回(日時未定) 事前準備に人手が必要です。
ホームステイ、ホームビジットの受入	随時。 留学生との交流に絶好のチャンスです。短時間、 短期間でも一緒に過ごしてみませんか？！ ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

【2】新幹事からひとこと

留学生支援の会に期待すること

池村 洋栄

4月6日入学式に出席する為、私と娘は武蔵境のバス停で並んで待っていました。

私たちのすぐ前で、同じく新入生らしい女子学生が不安そうに周りをしきりに見渡していました。思わず声を掛けると、そこのバス停でいいのか、間に合うのか心配だとのことでした。私が大丈夫だと告げると少しほっとしたようでした。遠く親元を離れ、数日前から1人ぐらしを始めたばかりだと話してくれました。

式を終えて、調布駅から帰りのバスに乗ると、後から来た女子学生が料金を払わないで中に入ろうとしました。運転手から先に料金を払うように促されると、すぐにお金を取り出して入れました。その不安げな顔がとても痛々しく見えました。料金の前払い、後払いなどバスの乗り方一つとっても地域によって違うものです。そんな彼女たちも夏休みになる頃には、友達もでき東京の生活にもすっかり溶け込んでいることでしょう。しかし、慣れるまではご実家の方々もさぞかしご心配のことと思います。日本人学生でもそうですから、外国からの留学生にとっては文化、習慣の違う日本での生活は大変な困難があるものと察せられます。

私自身、30年以上前にアメリカでの留学生生活を始めたころの不安感は忘れません。孤独感は言葉の問題だけではなく、習慣の違いによると思うのです。そんな中、温かく迎えて下さったホストファミリーとの交流は私の支えとなりました。物事が上手くいかないと、兎角その国のせいにしがちで、その国を嫌いにさえなってしまうのではないのでしょうか。実際私はそんな気持ちになることもありました。私の留学生生活は多くの方々との温かい交流があったからこそ、今懐かしい気持ちで思い出することができるのでしょう。

この留学生支援の会が、留学生にとってホストファミリーのような支えになり、留学期間を終えて帰国する時、そして帰国してからも日本が好きでいてくれたら、どんなに素晴らしいでしょう。

たくさんの機会に留学生と関わりたい

岡本 操

この度、新しく幹事に加えていただきました。

以前からバザーなどの催し物には参加していましたが、もっとたくさんの機会に留学生の皆さんと関わっていただけたら嬉しく思います。

言葉は？ですが、他の得意な分野でお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

皆さんと知恵を出し合いながら

直島 阿弥子

外語大広報誌「GLOBE Voise」創刊号の学長先生対談記事のフジテレビ前社長と同じようなきっかけで、この春から娘が外語大にお世話になっています。きっかけが不純ですから、当然親子ともに外語大について何も知らない状態での入学。たまたま入学式後の幹事募集の呼びかけに、外語大について何か知るきっかけとなればという軽い気持ちと、高校時代体調を崩した娘は、心身ともにぎりぎりの状態の中、さまざまな人の助けを受け少しずつ回復してきたこともあり、少しでも誰かの助けになることが出来るなら、とこれまた軽い気持ちで参加しました。ですから、こんな私に出来ることはほとんどなさそうですが、皆さんと知恵を出し合いながら、少しでも留学生の支援そして日本人学生と留学生の交流が深められるように出来ればと思います。

宜しくお願い致します

伊藤 さやか

このたび留学生支援の会の新幹事となりました伊藤です。

娘の外語大英語科入学をきっかけに保護者として、また近隣住民として何かお役に立てないかと思い応募させていただきました。

これまで短期ホームステイで海外からの高校生を受入れた経験はありますが、支援の会のような組織として長期にわたり多くの留学生のサポートに当たる活動に参加させていただくのは、もちろん初めてで内容

も詳しく把握しないままに幹事という任を引き受けてしまいました。

まだお手伝いを始めて一ヶ月にもなりません、その活動内容の広さ、きめの細かさに感嘆しております。

交流行事への参加や週一回の連絡室通いで、わが子が留学した際に留学先でどんな支援を望むかを念頭に置きながらお手伝いしていきたいと思っております。

なにより外語大の素晴らしいキャンパスの新施設アゴラ・グローバルで活動できることに新鮮な喜びを感じております。

留学生支援の会に仲間入りした理由

鈴木 裕子

留学生支援の会の幹事にこの4月から仲間入りさせていただきました。理由は二つです。

一つは、縁ありまして、娘がこの四月から東京外国語大学の大学生になり、入学式のときに、中嶋会長かのお話を伺い、微力ではありますが、力になりたいと思ったこと。

もう一つは、四、五年前になりますが、私の勤務校にタイ語しか話せない女の子が転入してきたので、タイ語を話せる方(学生さん)をご紹介いただけたらと、東京外国語大学の門をたたきましたが、ご縁がいただけないまま、その女の子は、母の国であるタイに戻って行ったという出来事。

この二つのことから、なんとか留学生の手助けができれば、と思ったのです。日本文化、日本の心を留学生支援の会の皆様とともに、留学生の方々と交流を通して伝えていければと思っています。よろしくお願いいたします。

留学生支援 会員の皆様ひとりひとりが

留学生の笑顔をつくります！

ご入会、ご寄付 ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■ 協賛会員

(平成22年4月1日～22年5月31日)本間令子(敬称略)

■ 一般会員

(平成22年4月1日～22年5月31日)以下、敬称略

相田莉那	今淵花音	小澤絵奈	小坂絵莉沙	芝田悠介
青木駿	伊牟田梨加	小澤菜穂	小島郁太郎	志藤聡子
秋元陽子	岩下元	尾城舞	小島俊介	嶋田聖子
浅井順子	岩野沙紀	尾田夏美	小島理沙	島田聖地
浅川奈美	岩本伊代	貝塚里沙	小曾根志帆	島田智子
浅川遥香	上江洲格	海保智雄	小高邦夫	島津忠昭
浅田真友子	上田咲里	鍵山滋	小谷岳	嶋野慶次
浅見真理恵	上野まり	粕谷早矢佳	後藤亜紗奈	清水優花
浅野美月	上原梨花	片山由貴	後藤貴朗	清水理奈子
浅見啓介	植村彩子	勝部世志子	木幡美里	下野和博
麻生弘	鶴飼檀	加藤早紀	小宮早紀子	下山晴彦
安土紗生	内川圭子	加藤淳	小森慧子	謝文馨
安彦政康	内田拓志	加藤実千代	惟村武弘	周含遠
阿部千明	内野優香	加藤愛惟	近野恵利子	ショウエン
新井瑠	江川清人	門脇悠人	齊藤詩織	上加敏朗
有馬千晶	江川友理子	金子壽興	齋藤翔太	庄司綾乃
飯島明日香	江澤雄志	金杉郁野	斎藤恒雄	白神茜
飯塚久士	榎本飛鳥	神谷佳秀	斎藤麻由美	白幡拓弥
五十嵐歩	榎本浩一	河合克則	斎藤芽衣	新野雄次
池田凛太郎	王かいん	川井美晴	斎藤順彦	神保周人
池村洋栄	大内敬太	川崎航	齋藤里菜	水津蒼
井坂ゆかり	大浦杏生子	川西明日香	蔡陽陽	水洞幸夫
石井宏樹	大串沙友里	神田浩輝	坂井清典	菅野研作
石川 諭	大久保陽一郎	神田美穂	酒井邦造	杉崎徹
石川孝史	大沢有未	神野瑞穂	嵯峨育也	杉本卓
石川湧	大島隆寛	菊池祐貴	榊原麻起子	鈴木麻実
石口創基	大須賀美紀	岸本枝里香	榊山亮	鈴木怜
石津さく	太田里美	岸本かほり	坂田礼	鈴木友之
石橋知士	大谷卓	北澤薫	佐々木笙子	鈴木祐己
和泉綾音	太田憲男	北島正一	佐々木信	砂原美穂
磯崎祐子	大塚 奨	木戸皓平	佐々木里奈	清野宏海
磯邊雅敏	大西陽一	木部愛	笹栗美紀	銃川貴久
板橋美穂	大野華央	杵掛亜紀子	佐藤亜美	高石桃子
板屋智子	大野博	杵掛可菜	佐藤綾花	高木雅彦
市村夏輝	大場朗	久保智克	佐藤至	高木美羽
伊藤愛	大場一花	倉田夏樹	佐藤慶太郎	高崎麻鈴
伊藤あすか	大屋昭浩	蔵富靖規	佐藤健	高島智子
伊藤佳奈子	岡垣亮我	呉文里	佐藤健二郎	高瀬聡
伊藤光治	岡田恭平	黒岩早紀	佐藤拓海	高津杏実
伊藤慎也	尾形侑香	桑原広幸	佐藤忠	高野沙紀
伊藤崇展	岡田龍	郡司智子	佐藤千紘	高野正昭
伊藤まどか	岡村かえで	小池都司	佐藤淑恵	高橋沙希
伊藤光暁	岡村広樹	小泉博	佐野佳男	高橋 翔
伊藤里奈	岡本和樹	小泉里夏	澤井祥子	高羽輝
井上朋子	小川真央	小泉遼	澤出慶太	高濱朱里
井ノ上理華	沖浦彩香	小出三郎	沢登慶子	財部辰也
猪瀬和男	小倉英敬	鯉沼なつ希	設楽大伍	田川博美
今泉勇人	小黒大衛	鯉沼祐介	篠原正	滝尾夏美
今瀬良孝	尾崎眞子	黄繪如	篠柚里香	竹内香織
今手麻衣	尾崎悠	後閑駿一	柴田夏帆	竹崎茜

武田絵梨花	西郡実咲	堀越未亜	山口あずさ
武田葉	西田彩夏	堀澤三奈子	山口詩織
武田惣人	西田成志	堀谷加佳留	山口夏波
武良薫	西山邦央	本多松重	山口藤菜
田尻浩章	野尻伸	本多まり子	山口里緒
田代圭	野田葵	本間 尚	山下菜穂子
田代嶺	則信信二	牧田英之	山下玲奈
館井雄志	萩原真由子	正木紅葉	大和正浩
田中麻子	橋本琴音	増田顕範	山野辺明子
田中綾海	橋本萌那	榊藤和弘	山本七生
田中晏奈	長谷川麻菜	松岡博之	山本真結子
田中聡	秦亜紗美	松尾果歩	油井絢子
田中小百合	八町めぐみ	松川翔宇	横道綾
田中翔子	馬場浩一	松下真太郎	吉川幸文
田中孝夫	林ちひろ	松下康弘	吉原諒
田中奈津美	林直柔	松田真一	若松香枝
田中琳太郎	林伸枝	松村航平	鷺尾幸代子
田邊瑞穂	原口真菜	松山博明	渡邊佳營
田邊洋平	原澤美里	松山良介	渡邊洋司
千須和枝里子	原田梨沙	丸山花	渡邊由佳
千葉純平	原昌子	三浦佑子	渡部未央
千葉元	日坂彩美	水持志津子	和田真未
中元寺大明	平岡幸人	南孝樹	割鞘裕貴
對馬あかり	平田里奈	峯岸永一	
土田直子	平野貴大	宮崎光	
土屋門	蛭田洋	宮武篤	
角田豊治	廣瀬綾華	宮田守	
寺田舞香	廣田崇	宮地彩佳	
戸田成紀	深澤咲弥	向笠雅隆	
富田沙彌子	深谷恵抄	村上暢貴	
富田晋太郎	深谷文昭	村山望	
外山佳瑞	福井彩香	茂木彩	
鳥山芽衣	福島健一朗	望月雪絵	
内藤聡	福重佑紀	茂木果林	
直島阿弥子	福地英明	森かりん	
永井由紀子	福地英明	森山浩明	
長尾拓應	福村智生	安井仁美	
中崎耕二	藤井篤直	安井悠	
永島嘉乃	藤井はるか	安神 健	
中島利佳	藤井雅美	安永真秀	
中野灯	藤瀬拓也	八田悠里衣	
長野太一朗	藤田昌弘	柳川陽介	
中野まゆみ	藤巻遼	柳沢和弥	
中村詩衣奈	藤山健太郎	柳瀬瑞希	
永盛敬司	藤原咲季	矢野龍太郎	
中山一貴	藤原瑞穂	矢作俊介	
南雲博	鮎山千宥	矢幅千春	
鳴見拓也	保科奈津記	薮内奈々絵	
新村万里子	細井聖	山内美穂	
新山晴美	細見友香	山岡美咲	

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、
当会までお知らせ下されば幸いです。

平成 22 年度 会費納入のお願い 随 時 受 付

平成22年度も**引き続き**会員としてご支援いただき
たく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さ
います様、お願い申し上げます。(すでに本年度分納
入済みの方はもちろん不要です。) **振込用紙にメール
アドレスをお書き添えいただければ**、今後、当会の各
種イベントなどの情報をお届けしていきます。

ACTIVITIES

8. これからの活動

1

秋期(10 月期) バザー開催

10月19日(火)～10月20日(水)

国際交流会館 2 号館交流ホール

バザー用品受付等、詳細は **別紙ピンク色** の
印刷物をご覧の上、ぜひご協力をお願い申し上げ
ます。

バザー開催期間:10月19日(火)～10月20日(水)
バザー用品受付:10月12日(火)～10月18日(月)

また、バザーの人手が足りません！ご協力を！！
バザー用品の物品仕分けや、準備をする人手のご協
力をお待ちします。

当日のお手伝い参加可能な方は、当会または
下記までご連絡下さい。

042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

会員寄付者

■ 平成 2 1 年度一般寄付

(平成22年1月16日～22年3月31日) 大坪美智子、坂本恵、
鈴木茂樹、日高京子、八坂みどり(敬称略)

■ 平成 2 2 年度一般寄付

(平成22年4月1日～22年5月31日) 飯島明日香、榎本浩一、
大山幸房、加藤実千代、挙市玲子、小島郁太郎、設楽大伍、
下山晴彦、菅野研作、中村博、本間令子(敬称略)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成22年 4月25日(日)

平成22年 5月22日(土)

平成22年 6月20日(日)

HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れに
関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どしどし
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関しての
感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

通常6月に発刊しております本会報ですが、今回事
情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183

FAX: 042-330-5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2010, TUFSS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No.35

年3回発行

会報

Since 1999

今年も、“国際交流のタベ” イズ カミング！！

この機会に留学生と交流しませんか！（詳細は16ページ）

**Pick Up
Event 2010**
SPECIAL THANKS TO ALL, ありがとうニッポン！ 10月期バザーが無事
終了、今回はその様子を写真でピックアップ。（詳細は7、8ページ）

留学生の声 研究に励む留学生の心境は、今……。 （詳細は13ページ）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告
	3-1 歌舞伎見学と 懇親茶話会
	3-2 国際理解教育への 参加
	3-3 10月期バザー
	3-4 商店街祭り初参加
	3-5 紅葉丘「地域文化祭」
	3-6 七夕茶会
	3-7 夏休み将棋教室
Page 10.	4. ホームビジット&ホームステイ
	4-1 富士山麓バスツアー
	4-2 ニコラスさんを迎えて
Page 13.	5. 留学生の声
	5-1 十年前の自分と今
	5-2 今もこれからも感謝 するのだ
Page 16.	6. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

コーネル大学留学の思い出

 多言語・多文化教育研究センター長
北脇 保之

妻、1歳4カ月になる息子とともにアメリカ大陸の土を踏んだのは、1979年7月の初めだった。梅雨の日本を飛び立ってきた身にとってサンフランシスコは、街全体がエアコンの中に入ったようにひんやりとして気持ちよかったことを、昨日のこのように思い出す。

私は1974年に自治省（現在は総務省）に入省し、1979年から2年間、人事院所管の長期在外研究員としてコーネル大学に留学した。当時、大蔵省や通産省など対外的な仕事を持っている省庁はいくつかの留学制度を持っていたが、地方行政という内向きの仕事しかない自治省にとっては、この人事院の派遣制度が唯一の留学の機会だった。今でこそ、総務省でも留学希望者は非常に多くなっていると聞くが、当時省内では、留学してもその後の仕事に役に立つわけではないし、却って留学中の2年間出世が遅れる

ただだという考えの者が多く、留学希望者は少なかった。そのような風潮のなかで、私は、幕末・明治のころでさえ世界に乗り出して行った若者たちがいたのに、この便利な現代に生まれて世界を見ずに終わることほど残念なことはない、目の前のチャンスは必ず活かそう、という考えで留学を希望し、それが実現した。その後、自治省勤務の間に(財)自治体国際化協会に出向し、いわゆる「内なる国際化」に関わる事業や姉妹都市交流事業などを手掛けたし、浜松市長としては、多文化共生政策を推進するとともに、国際ピアノコンクールや浜名湖花博などの国際的事業も実施した。そして現在は、本学の多言語・多文化教育研究センター長として日本社会の多言語・多文化化に関する教育・研究に取り組んでいる。こうして見ると、幸運なことに私の仕事は世界との関わりという点でどこかつながっており、その出発点がアメリカ留学だったと言える。出世の階段の中での1年、2年の違いなどという小さなことよりも、自分が生まれてきた世界の中で一生の間に何ができるかという、大きな視点で考えることが大事だと改めて思う。

コーネルは米国東部のアイビーリーグの一つで、ニューヨーク州の内陸部にあり、全米一と言われる美しいキャンパスで有名である。大学の中に滝や溪谷があり、川が流れている。大学のある地域は、氷河が消え去るときに指の引っかき傷のようにしてできた湖がいくつかあって、フィンガー・レイクス地方と呼ばれている。このような美しい土地で、2年間、夏はバーベキューやテニス、冬はスキーやスカッシュと本当に楽しい日々を過ごした。

コーネルには留学生オフィスがあり、留学生に対する対応は非常によくできていた。私たちは大学所有の2階建て長屋風世帯用アパートに住んだが、そこには留学生とアメリカ人学生が混住していた。私たちの部屋の片方の隣はユダヤ系とアイルランド系のアメリカ人夫婦で、女の子が一人いた。もう一方の隣は、ヴェネズエラ人の夫婦で、男の子が一人いた。お互い同じ年ごろの子どもがいることもあって家族ぐるみの付き合いになった。特にアメリカ人夫婦には、当初私たちが車もなければ免許もない状態で生活を始めたときに大変お世話になった。

留学生オフィスにはホストファミリーを紹介してもら

った。こちらにもうちの息子と同じ年ごろの男の子がいて、バーベキューやクリスマス、フットボール観戦など一緒に楽しんだ。その土地に根をおろしている家族と知り合いになれたのは、何かと心強いものだった。

よく、アメリカに留学した人はみなアメリカ好きになって帰るという。私たち家族もその例に漏れない。アメリカのパワーの源泉の一つが、このようにして築かれた人脈にあることは間違いない。なぜアメリカが好きになるかというと、大学の留学生対応が整っていることもあるが、アメリカ人の気質にも理由がある。アメリカ人は利害が対立する場面での自己主張が強く、また、仕事としてのサービスについては日本人から見るといい加減なことも多い。しかし、一人の人間として、困っている人を見たら助ける気風があることも事実である。私自身、大クラスの授業でノートが取れず困っているときにクラスメートにノートを貸してもらったり、長距離旅行の途中車がエンストを起こしたとき通りがかりの人に手伝ってもらったり、いろいろな場面で助けられた。翻って、日本はどうか。留学生をはじめ外国から日本に来た人たちに日本を好きになってもらうこと、これは留学生支援の会と私どものセンターの共通の目標であり、本学全体の目標でもある。

2. ご挨拶

博士論文印刷助成金の支給など

会長 中嶋 洋子

今年の夏の猛暑、身に応えました。秋になったとはいえ、異常気象を実感し、順調でない地球に怖さを感じます。

会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

さて、前号にて今年度の行事予定、予算案を示しましたが、その後、会員の皆様からは特にご異議の声は届いていません。遅ればせながら今年度の活動が正式に始動します。

すでに春以降、歌舞伎教室への参加、地域小・中学校の“国際理解教育”に留学生が講師として参加、ホームステイ、各種同好会(茶道、華道、書道、囲碁、将棋、尺八)の活動など地道に活動しています。各活

動報告をご覧ください。

また、自転車貸出事業も大変好評です。4月期、10月期には大勢の留学生が殺到し、その1人ひとりに対する手続き、実際の貸し出しの労力は大変で、幹事(協力者も含め)一同一生懸命努力をしています。パンクに対する対応(お店にもって行って修理してもいいのですが、留学生にとっては決して安くはないので、担当の舘さん、岡田さんのご協力で修理しています)、さらには、自転車をいつでも使える状態にキープしておくこと(その困難)、貸し出した自転車の盗難・紛失事故、交通事故、帰国時の自転車の無責任な放置などなど、問題も山積しています。

さらに、前号でお知らせしましたように、新しい企画として、博士学位を取得した留学生の博士論文の印刷に関わる経費の一部を助成します。申請のあった3名の留学生に対し、1人5万円を助成しました。来年3月にも、後期の有資格者の留学生に対しても同様に助成することになっています。当会としては、ささやかですが奨学金に代わる助成金支給ということになります。これもひとえに会員の皆様の会費納入、ご寄付などのご協力によるものでありまして、ここに感謝申し上げます。

最後になりましたが、10月1日付けをもって、渡邊恵美子留学生課長が学芸大学に準教授としてご栄転、新しく中田多美留学生課長を千葉大学留学生課よりお迎えすることになりました。

渡邊課長には当支援の会の活動に関連して、新しい観点からご助言をいただくことが多々ありました。ここに深くお礼を申し上げます。

REPORT

3. 活動報告

3-1 歌舞伎見学と懇親茶話会

日時 7月4日 午後2時～6時

場所 国立劇場・グランドアーク半蔵門

参加者数 留学生24名、日本人学生10名

幹事他 15名(聴講生、留学生家族、留日センター教師、外国人教師を含む)

内容 解説:歌舞伎の見方

歌舞伎鑑賞: 身替座禅

懇談茶話会: コーヒー(紅茶)とケーキを
いただきながら懇談

所感

若手歌舞伎俳優による歌舞伎の歴史・舞台装置・見どころなどのわかりやすい解説で始まり、留学生も日本人学生もリラックスした雰囲気の中で鑑賞に臨んだ様子でした。

座席も最前列からの鑑賞で臨場感もあり、狂言からきた伝統的題材ということでしたが、内容が万国共通のコメディだったこともあり、ところどころで笑い声も聞こえました。

懇談茶話会で感想を聞いたところ、「内容がおもしろかった」、「難しくなかった」、と好印象のようでした。「表情や感情表現が豊かで良かった」という感想もありました。

残念な点は、留学生の当日連絡なしの不参加や集合時間を守れないなど毎度の課題ですが、なんとか良い方法はないものかと考えさせられました。

大学の試験の時期などをよく調べ、大勢の学生が参加できるような日時の設定をするべきだった、その意味では同様の企画がある6月にした方が良かったのでは、といった反省点があげられました。

なお、昨年同様、日本人学生の費用は、学生後援会(保護者の会)が負担してくださいました。

(伊藤さやか 記)



(↑参加者一同、国立劇場前にて。)

以下、参加した学生らの感想文です。

若者目線で、伝統芸能の素晴らしさを知る

中国語専攻1年 池村 直美

留学生と歌舞伎鑑賞教室に行った。歌舞伎を観るのは、中学生時の学校行事以来2回目のことだ。もともと舞台に興味があるので、歌舞伎を観るのは楽しみだったし、留学生と観に行く、というのもこのイベントの魅力であった。

まず歌舞伎が始まる前に、若い歌舞伎役者の方々が歌舞伎の歴史、舞台やお化粧の説明などをして下さった。馴染みのある音楽を使っていたり、わかりやすい言葉で説明して下さったり、そしてなにより、自分とあまり歳が変わらない人が歌舞伎の舞台に関わっているということで、今まで歌舞伎に対して抱いていたお堅いイメージが取り払われたような気がした。

歌舞伎の演目は『身替座禅』。事前に解説があったおかげで話の大筋を理解して楽しむことができた。舞台や衣裳、お化粧にも注目して観ることができ、改めて歌舞伎の美しさ、日本の文化の素晴らしさを感じた。

歌舞伎鑑賞後、留学生とお茶を飲みながら色々お話をする時間があり、その日観た歌舞伎はどうであったかなどについて話をした。多くの留学生が、言葉が難しかったものの、内容は大体理解できておもしろかったと語っていた。自国の伝統芸能の話になった時は、一応あることはあるが若者はあまり知らない、という話が目立った。歌舞伎についても、普段若者が触れる機会はあまりないと思う。しかし、今回私は、歌舞伎は若者にも楽しめるものになってきていると感じた。以前歌舞伎を観た時も歌舞伎鑑賞教室として行き、役者の方々による解説などはあったのだが、今回の方がより若者目線で誰にでも歌舞伎に親しみを感じさせるようなものであったと思うし、演目もより分かりやすいものであった。もちろん、それが歌舞伎の全てではないが、少なくとも興味を持つきっかけになると思う。

歌舞伎に限らず、日本には素晴らしい伝統芸能がたくさんある。それらを日本人、特に若者が楽しむことができ、さらに外国の方々にも知っていただくことができればいいと思う。

My experience attending Kabuki performance in Tokyo

Duhoki Muhammad (Iraq)

大学院前期課 PCS コース

(※Peace and Conflict Studies, 平和構築研究)

2010-07-04 there was a performance of kabuki Appreciation class in the National Theatre in Tokyo. The international student support association invited us to attend; the ticket price was 3800 yen but we only paid 500 yen for signing up. The Kabuki is a Japanese traditional and classical performance that has been performed since 400 years so far. It's a combination of drama, dancing and playing music with traditional instruments such as Shamisen. All together gives social stories of Japanese people in their land.

Before my coming to Japan for studying, my image on Japanese women was an eastern aspect, respecting, loving and helping the husband. Even having some customs of showing the loyalty to him. But what I heard about the position of the woman in the society, I got the image that Japan is a men dominant society. Kabuki play showed me something very unique, not impossible, but real. The reason of the Japanese woman, smart and trying to understand and figure out what is going on around her. So how do the women know that their men are cheating them or deceiving them by having a lover?

The story of this Kabuki play is about Daimyo (Feudal Lord) and his wife. The man 'Yamakage Ukyo' was attempting to see his lover behind his wife 'Tamanoi'. The wife always was beside him because of her special love to him. Therefore, how the man will be able to see his lover?



The man pretended that he was going to isolate himself in his alter room to do 'Zen meditation' (Zazen). He asked his vassal Taro Kaja to replace him to leave the house secretly without his wife to be aware of that.

In a moment, she knew that she is deceived, what is the best and reasonable way to show she is not, she went to the alter room asking the faked person under the cover meditating- my husband, I am concerned about you, please have some tea. But the person was not her husband, he is someone else 'Taro', so, she kicked him out and replaced him. So she is meditating now, waiting for her husband to return next morning. When he came back drunk, he didn't know that his wife is replacing Taro. When he realized it's his wife, he shocked that his fact revealed.

In that play, I understood that the Japanese woman beside all her merits she is a powerful woman. The man was confusing what to say and how to justify. That was the pure fact of how smart was the wife.

I think if we want to get to know a certain society we have to know their performances and stories that shape the past and modern times of the society. Personally, music also is an important thing to understand the feelings of the people with no speaking language. In addition, woman has her unique position in the society and specifically in the family. Therefore, knowing her style of life also gives a detailed aspect of the society.

3-2 国際理解教育への参加

(小・中学校の国際理解教育に、講師として留学生を派遣)

<1> 町田市立真光寺中学校

日時 7月3日

派遣留学生 6名(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、インドネシア、香港)

当日の経過 参加学生5名は集合時刻5分前までに到着。1名は調布駅で乗り換え電車を間違えてしまい、集合時刻に多少遅れましたが、その旨の連絡があり、心配せず待つことができました。

若葉台駅からはタクシー2台に分乗し、真光寺中学校へ。中学までの道順に不安のある運転手も、幹事の杉森さんが用意していた地図で場所の確認ができました。

当日の内容など 真光中学校は、23年前から「国際交流の日」の活動が始まり、毎年スローガンを決め、各学年で事前学習から取り組んでいる学校です。



1年生「アジアの国を知ろう」

2年生「ワークショップを通して世界を身近に
感じよう」

3年生「世界の子どもたちは今」

というテーマで、生徒の希望でいくつかの分科会授業に分れ行われていました。

留学生支援の会からの派遣の留学生たちは、1年生の「アジアの国を知ろう」では、2人ずつ3教室に分かれ、それぞれの国のことについて紹介する分科会を担当しました。

各自パソコンで作成してきた、画像を見せながらまた、挨拶の動作を一緒にしたり踊りを披露したり、トランプゲームをさせたりして自国のことをわかりやすく紹介していました。

終了後、PTAの方たちが用意してくださった軽食をご馳走になり帰途につきました。

授業終了時に、生徒たちからとても素敵な手作りカードを頂き、留学生たちも喜んでいました。いい経験になった、よかったと口々に言っていました。

午後の部は、体験授業後の感想や各学年の報告会、中学年、邦楽部の演奏等が予定されていました。

次回への申し送り 各自が持参したパソコンやUSBメモリーは接続前に必ず、訪問先の学校でウイルスチェックをしてもらってから使用するよう、伝えておいてくださいとのこと。(直島阿弥子 記)

＜2＞ 小金井東小学校

(講師として参加したマシフラホンさんの授業の内容などを以下に掲載します)

ウズベキスタンという国と よさこいソーラン節の贈り物

研究生

マシフラホン (ウズベキスタン)

みなさん、ウズベキスタンという国について聞いたことがありますか？(みんな:いいえ。)

ウズベキスタンは中央アジア 5 カ国の一つであり、中央アジアの中心部に位置しています。みんなはロシアは聞いたことがありますよね、地図で見ると、そのロシアの下の方にありますよ。前は旧ソ連の国の一つでした。周りにはカザフスタン、キルギスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、という国々があつて、その全部で中央アジアになっています。ここで“イスタン”という言葉が沢山出てくるけど、それは“～の人が住んでいる国”という意味で、たとえば“ウズベキスタン”は“ウズベク人が住んでいる国”、“カザフスタン”は“カザフ人が住んでいる国”という意味になるわけです。それでは、ここでクイズ。“タジキスタン”は“何人が住んでいる国でしょう？”。そうですね、みんな、よくできました。ウズベキスタンは 1991 年に独立して、ウズベキスタン共和国になりました。

人口はやく 2,800 万人で、面積は 44 万 7,400 平方キロメートル、日本の約 1.2 倍です。

公用語はウズベク語で、ロシア語もほとんど通じます。ですから、旧ソ連の国々の人とロシア語で話すことができるので、とても便利です。

これはウズベキスタンの国旗です。ウズベキスタンの国旗には青と白と緑、そして二つの赤い線があります。青は青空、つまり平和な国、緑は緑が豊富な国、二つの赤い線は人々の体の中で流れている地のことで、みんな一生懸命頑張って生きているよ、という意味をあらわすものです。

ウズベキスタンにはいろいろな民族の人が仲良く住んでいます。

物価 は中央アジアの中では安いともいわれますし、ウズベキスタンの物価と日本物価を比べたら大体 10

倍の 1 ぐらいです。つまり、日本のほうが 10 倍も高いということです。

宗教は一イスラム教です。ですから、豚肉は食べられません、アルコールも禁止です。

季節は四季あります。春と秋は涼しく、夏は暑い、時々 40 度超える場合もあります。冬は寒くて、雪がたくさん降って、積もります。日本との気候の違いは、湿度が低いことです。ですから、夏は結構暑くても、影のところにいれば、全然熱く感じません。

首都はタシケントです。タシケントは緑が豊富で、現代的な建物や歴史的な建物が沢山ある、とてもきれいな街です。

タシケント以外にサマルカンドやブハラ、そしてヒバという歴史的な街があつて、世界遺産にも登録されています。これらは昔シルクロードが通った街ですので、シルクロードに強い興味を持つ日本人や他の外国の観光客が良く来ます。

ウズベキスタンの若者はみんな勉強熱心で、それとともに家事の手伝いもよくやっています。小学生の時から、女の子は台所でお母さんに料理の手伝いをしたり、男の子はお父さんやお祖父さんに庭での作業に手伝ったりします。高校生になった時女の子は料理をだいたい全部自分で作ります。

みんな勉強が大好きで、学校や大学で勉強するだけでなく、外国にも留学したい学生が多いです。しかし、上でも述べたように、物価は世界の多くの国々と比べてとても安いので、留学するには国費留学という道しかありません。ということは、本当に一生懸命頑張った人しか留学のチャンスを得られません。

面積が広いこともあつて、ウズベク人のうちは結構大きいです。一戸建ての場合は必ず外庭と内庭があります。

ウズベク人の主食はパンです。パンがみんな大好きです。

料理は日本の料理に比べて少し脂っこいです。

みなさん、ぜひウズベキスタンに来てくださいね。お待ちしております。

感想

今回の交流はとても面白く、楽しい交流として印象に残りました。

まず、日本ではこのような交流を重視するということは素晴らしいアイデアだと思います。まだ小さい時から自分の国以外にも国があること、そしていろいろな文化があることを子供たちに教えるいいチャンスではないかと思います。できることなら、私の国—ウズベキスタンでもぜひ行ってみたいです。

また、ただ講義を聴くのではなく、一緒にいろいろな遊びをしながら教えてもらうというコンビネーションがとてもよく考えられているのだなあと思いました。

そして、教えてもらうだけでなく、自分も何かやってあげる、教えてあげる、伝える、という考えとしての最後の踊り、“よさこいソーラン”(?)もとても印象深かったです。子供たち、可愛いですね。あの一生懸命やる姿が何より心に残りました。

そして、個人的に私のグループになってくれた子供たちについての感想ですが、他のグループより速さではなく、質、正確さを重視するグループだなというふうに感じました。急いで失敗するよりは、少し時間かかってでもいいから、きちんとやりましょう、というような性格の子供たちではないかと強く感じて、とても驚きました。

皆、とても可愛かったです。

チャンスがあったらまたぜひお会いしたいですね。

3-3 10 月期バザー

バザーへのご協力ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

去る10月19日(火)、20日(水)の2日間、10 月期バザーを開催しました。今期は、これまで以上に大勢の会員の方が品物をご寄付くださり、会場のホールが品物で一杯になりました。品物の分類、展示などの準備や、当日の販売のお手伝いに、新しい会員の方が数人来て下さいました。

初日は、200 人以上の留学生が開始と同時にドット入場し、まず欲しい必要な品物の置かれた場所へ進んで行き、その後、会場全体を見て回り、品定めをしたり、値引きを交渉したりと、バザーを楽しみながら品物を求めていました。やはり、一番人気は電気釜やトースター、ドライヤー、アイロン、電子辞書等の電化製品、寝具の売り場に多くの学生が集まりますが、需用

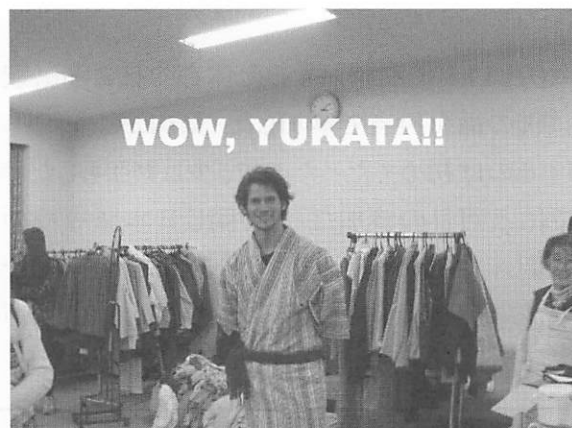
が供給より多く、いずれもすぐになくなりました。ところで、食器、台所用品、バスタオルが今期は多く集まり、留学生は一つ一つ好きなものを選んで求めていました。缶詰、新米、のり等の食料品や冬物の衣類や着物なども、売り場担当の幹事さん達の、「これ美味しいから食べてみて」とか、「よく似合うわよ」などと、上手に勧められて買ったり、留学生たちも支援の会の会員たちもバザーを楽しんでいました。

今季は、皆様から送っていただいた品物が今まで以上に多いことと、期間が 2 日間だったせいもあってか、残った衣類や食器がありましたが、期間中に来られなかった留学生たちに、欲しいものは無料で持って行ってもらったり、近くの病院や、市のバザーに寄付することにいたしました。

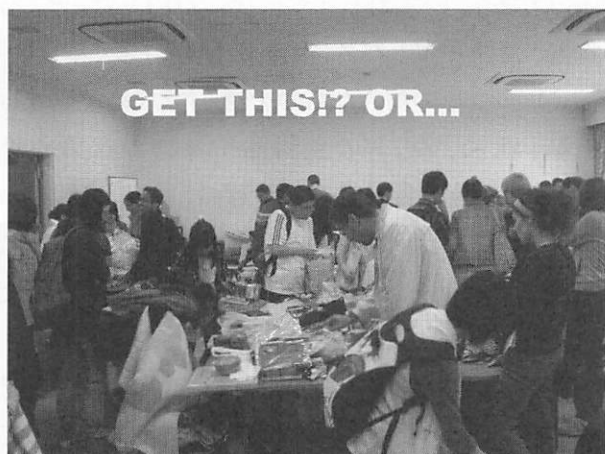
今回も原則として、電気製品 500 円、他はすべて 100 円(小さな物はまとめて)、書籍はただとしました。書籍の中では、辞書、子供用の歴史小説や児童文学書、教科書などは、すぐになくなりました。また、男子用の着物も人気でした。

いつものように、留学生たちは、いい品物を安価で得られて嬉しそうでした。支援の会に「ありがとう！これからもよろしく！」と、口々に言って帰って行きました。バザーの収益金は従来よりも多く、75,616円でした。

いつもながら毎回、送料もいわず様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。



(↑ 浴衣をみつけて大満足・ありがとうニッポン！)



(↑会場内はこのような感じで、みな燃えています。)



(↑これもあれもゲットしようかと、迷う留学生。)

3-4 商店街祭り初参加

“日本でのこんな一日もありなんだ”

日本課程3年
イム ジェイン (韓国)

私は10月11日の秋晴れだった体育の日に多磨駅商店街祭りの福引担当で参加した。祭りに働き手として参加するのは初めてだったので、少し緊張もしたけど、すでに三回目の参加だという同じ日本語専攻の友達と、優しいおじいちゃんたちと一緒におしゃべりをしているうちに緊張も解け、気楽に仕事を始めることができた。

仕事内容は福引の受付と景品の案内で、5等以上が当たると鈴を鳴らしてお祝いをするなどだった。特に難しい作業はなく、私の大好きな子供たちとたくさん会えたので幸せな気持ちで働くことができた。かわいい子供たちと「特等が当たりますように」と一緒に祈ったり、2台の推選機のうち、もっと確立の高い方を耳打ちしてあげたりすることがとても楽しかったし、野菜が当たると嫌がる子供たちを見ると面白くて、つい、けらけらと笑ってしまった。

提供されたおいしい昼ごはんを食べてからは、景品を渡すところでも働かせてもらったが、9等のお花の小鉢を選ぶことを手伝うときは、「今は日差しが強くて、ちょっとしぼんでいるけど、水をやると元気を戻しますよ」と言い、8等の野菜のところでは「カレーセットがお勧めです」などを言い、まるで自分がお花屋さんか八百屋さんになったような感じで働いたことも記憶に残っている。

仕事を終わると、外大生にも推選のチャンスが与えられ、私はお花をもらって帰ってきた。今は紫色のパンジーが毎日玄関で私を出迎えてくれている。花を見るたび、この日のことを思い出す。とても楽しくて充実した一日だったので、1,2年生のとき知らなかったことが残念だといつも思ってしまう。できれば、来年もぜひ参加したいし、その日までは、祭りで出会った皆さんのいる商店街を利用したいと思っている。

3-5 紅葉丘「地域文化祭」

紅葉丘文化センターの文化祭が10月24日(土)に行われました。

外大の留学生が12人、日本人学生3人が参加しました。

幹事の4人と留日センターの宮城先生が引率しました。参加者は、みんな地域の大勢の人たちと交流し、出し物を楽しんだ一日でした。以下は参加留学生の写真と感想文です。

留学生支援

会員の皆様ひとりひとりのご協力が留学生の笑顔をつくっています！



(↑上: 歓迎されてソフトドリンクで乾杯。下: 沖縄の踊りを一緒に楽しむ留学生たち。)

「ジャスミン・マツリカ」～歌を通じて

I S E P 特別聴講生
張 静之 (中国)

先週の日曜日、ほかの留学生と一緒に町の紅葉丘文化センター主催の「地域文化祭」へ見学した。私たちはほとんど日本に着たばかりで、「『地域文化祭』はいったいどんなものか」とみんなわくわくしていた。

迎えに来たのは、地域の学校の中村先生だった。中村先生は地域の学校の音楽教師だ。日本文化についていろいろ親切に紹介してもらった。文化センターに着いたら、まずお弁当を食べた。小さな弁当ボックスなのに、いろんな種類の食べ物が入っていた。おいしくて、色も華やかだった。「和食は目で楽しめる」とよく言われるように、日本人の美意識に感服した。皆がおしゃべりながら食事をしていて楽しかった。いつ

の間にか、緊張感が消えていった。おいしいお弁当のおかげかなと思った？！

その後、同好会の展覧室へ見学した。もっとも印象深いのはやはりあすなろ水墨画同好会の作品だった。水墨画は鎌倉時代に禅とともに中国から日本に伝わってきたものだが、日本で発展し、独特の風格を持つようになった。一番気に入ったのは、桜が満開している雰囲気表現している絵だった。桜の薄ピンクの華やかさと空気に浮かんでいるわびしさの絶妙のバランスをとっていた。

午後、地域の小中学生の太鼓やトランペットなどのパフォーマンスを観賞した。ちょっと寒かったけど、ショートパンツを着て、元気満々な姿を見て、すごく感動した！沖縄の演舞も大変面白かった。日本の伝統的な音楽とだいぶ違って、南国風をしているメロディが強い印象をくれた。

その後みんなは外大の留学生の代表として、母語で挨拶をした。そして、自分の国の伝統的な歌を歌った。会場の雰囲気をより一層盛り上がってきた。私たち中国人の留学生が歌ったのは「ジャスミン・マツリカ」という民謡の歌だった。「ジャスミン」の花言葉は「清浄無垢」で、「愛」と「友情」の意味を伝える花だ。その歌を通じて、私たちの心の中の感謝や感動の気持ちを日本人の皆さんに伝えたいと思う。

私たちが日本に着てから今まで、ちょうど一ヶ月だ。思えばこの一ヶ月間の中で、留学生課や留学生支援課の皆さんのおかげで、さまざまな文化体験をした。一生忘れない思い出となった。

僭越の気持ちでいっぱいだが、留学生のみんなを代表して、心からの感謝の意を表したいと思う！！

3-6 七夕茶会

留学生との新しい発見と楽しくて有意義な時間

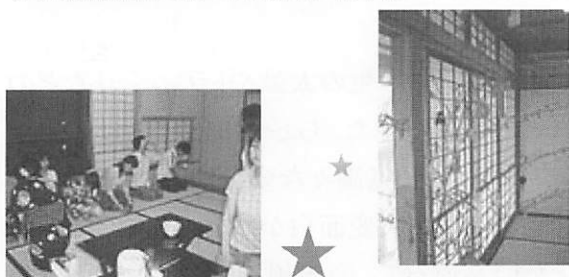
ドイツ語専攻 2年

(裏千家茶道倶楽部) 森 夏見

七月六日、今年も七夕茶会を行いました。七夕茶会は、留学生を招いて一緒にお茶会や七夕飾り作りをすることで茶道や七夕と言う日本の文化を知ってもらう会です。まずはお点前を見てお茶と和菓子をいた

できます。それから自分でお茶を点ててみたり、短冊を書いたり、折り紙をしたりしました。部員が折り紙を教えると、中国やほかの国の少し違った折り方を教えてくれ、新しい発見があります。希望した留学生には浴衣も着てもらったのですが、みんなとて

もうれしそうでした。今回は約40名、うち留学生22名とたくさんの方に集まっていただき、茶道に興味を持ったという感想もたくさんいただきました。楽しくて有意義な会になったと思います。



(↑お茶も浴衣も、願い事も楽しみました。)

3-7 留学生と小学生のための 「夏休み将棋教室」

日時 8月2日(月)・3日(火) 10時～15時
会場 外語大国際交流会館Ⅱ交流ホール
参加者 留学生4名、小学生15名(保護者10名)
来賓 むさし府中青年会議所 安井 修一様
講師 日本将棋連盟 棋士七段 中座 真
日本女子プロ将棋協会
棋士初段 中倉 彰子
テキスト 中座講師作成の初心者向けプリント
席主 佐々木日出男
(日本将棋連盟アマチュア参段)
所感 恒例の企画ですが、本年は幼稚園年長組2名小中、大学、大学院まで、さらに近隣地域の付き添い父母等が、一同に会してプロの解説と指導対局(午前)、自由対局(午後)充実、意義深い内容で、良き思い出になりました。(佐々木 日出男 記)



(↑毎年恒例となりました。)

地域交流と

日本文化体験プログラム

【午前】プロの解説と指導対局

【午後】自由対局

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ホームステイ

4-1

富士山麓バスツアー(留学生バスツアー)

長興寺住職・会員 松下 宗柏

今年の新春対談(静岡新聞1月1日)にある川勝平太知事の次のような言葉が心に残っている。「東海道というのは昔からの歴史があり、人の歩いたところですから、いろいろなものが残っています。静岡県には五十三次のうちの二十二次があるわけですから、おいしいものがある、景色もいい、人柄もいい、そうした、魅力がある東海道は『ふじのくに』においては『文化芸術街道』だと位置づける。これは決して経済を無視したものではありません。人が来れば富が回り、多くの人がその国を好きになるので、観光というのは実は平和への懸け橋になります」。

さて、「留学生たちに日本文化を体験させたいので協力していただませんか」という東京外国語大学留学生支援の会の中嶋洋子会長からの電話から「テンプルステイ」始まって八年目になる。これまで、エジプト、トルコ、シリア、ロシア、コロンビア、スイス、イギリス、タイ、モンゴル、中国、台湾と多彩な国々から二十名ほどの留学生が来訪した。彼らのうち多くが第一に望むことは、「富士山を見たい、富士山に登りたい」ということだった。

その内の一人、ロシアのイルクーツク大学からの留学生、エレーナさんから帰国挨拶のメールが届いた。「留学の一年はあっという間に過ぎてしまいましたが、様々な経験や文化交流ができて幸せです。そしてお

蔭さまで一つの夢を叶えられて、とても嬉しいです。お寺に住みながら禅文化に触れるチャンスを提供して下さって本当に有難うございました。・・・色々な所へ旅行したのですが、その中で一番印象に残ったのは富士登山です。夜登山を始め、暗いうちに頂上に辿り着いて、ご来光を見ました。その写真を添付いたします。どうぞご覧下さい」という美しい日本語の文章に、大きなロシア国旗をたなびかせ得意満面の山頂での写真が添付されていた。

今春、私は川勝知事の『ふじのくに文化芸術街道』の趣旨に賛同し、留学生たちの富士山への憧憬に応えるべく、「留学生・富士山ツワー」を思い立った。三月、ウクライナから来訪したユリアさんにこの構想を話すと、「是非参加したい、友達も誘いたい」という返事。そこで、中嶋会長に打診すると、企画の内容によっては幹事会にはかり協力したいという積極的な御意向であった。

幸い、ホームステイの受け入れについて、地元の沼津大塚郵便局長・高木康治さんに相談したところ、御自身が会長を務める東駿河地区郵便局長会(小山町、御殿場市、裾野市、沼津市、富士市、富士宮市)の会合で提案してみるという頼もしい返事をいただいた。ツワーの内容については、静岡県観光協会のツーリズムコーディネーターから富士登山について助言をいただき、静岡県国際交流協会からは沼津市の総合庁舎にある東部地域支援局をご紹介いただいた。早速、「国際交流と富士箱根トレッキング」を政策の一つにしている、小山町の担当者を交えての具体案の検討会を設定して下さった。このプランは、安全面を危惧する留学生支援の会の意向で今回は実現しなかったが、ここに関係者の意欲と御好意に感謝したい。

結局、郵便局長さんたちの全面的支援を受けて、柿田川湧水公園、富士山五合目、白糸の滝、富士五湖をめぐる「富士山山麓バスツワー」とすることに落ち着いた。留学生課で参加者募集をしたところ、予定数十名に対し、その日の内に十四名の応募があり締め切ったという。ウクライナ、ロシア、ウズベキスタン、トルコ、アメリカ、インドネシア、タイ、ベトナム、台湾からの男女留学生たちである。彼ら十四名は、七月一日午前十一時、新宿発の高速バスで沼津駅北口に到着、二泊三日の富士山麓ツワーを楽しむ予定である。

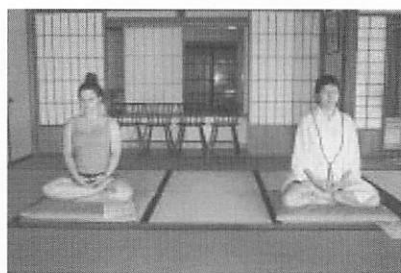
一ヵ月後に帰国を控えた留学生達に富士山麓の自然と靈氣を感じ得ていただければ幸いである。そして、このツワーが次のツワーになることを願っている。



(←留学生ら14名と富士花鳥園にて記念撮影。)



(←ついに富士山 5合目に到着も、残念ながら雨。その一方、霧に包まれた森林や白糸の滝を見ることができました。)



(←3 日目の朝、長興寺の本堂で坐禅する、エレーナさんとオリガさん。)



経験できてよかった！おすすめの三日間

I S E P

ロバノバ オリガ (ウズベキスタン)

ホームステイの経験は初めてですが、本当に印象に残りました。ただの家族と普通の家ではなく、お寺の中に住むことができ、とても素晴らしいと思います。一日中みんなで(他の家族と友達と一緒に)様々なところを見たり、一緒に食事をしたりすることもとても良かったです。みんなすごく仲良くなりました。

富士山を登ることができなくてちょっとがっかりしましたが、五合目まで行って良かったと思います。

柿田川公園・御殿場高原時之栖はとても面白かったと思います。富士山のもとから出るきれいな水を見て驚きました。

一日目のオリエンテーションのときにみんなはちょっと緊張しましたが、面白い情報を聞かせて嬉しいです。最初郵便局のことについて何もわからなくて、

色々な国の情報を聞いた後で自分の目で日本の郵便局を見てびっくりしました。その機械があると知らなくて、とても印象的だったと思います。ただ情報を聞くより、自分で経験できて良かったと思います。本当を言えば、ウズベキスタンにも同じような現代的で安全な郵便局を作ってほしいです。

白糸滝はすごく美しく、印象に残りました。実は、ホームステイの三日間の全部はすごく面白かったと思います。見学も、ただの散歩もとても良い思い出になりました。

私とユリアさんとエレナさんは一緒にホームステイしました。そのプログラム前に私たちは友達でしたが、一緒に三日間を過ごしたおかげでもっと親しい友達になったと思います。お坊さんには大変お世話になりました。毎日私たちと朝から夜まで時間をすごして、様々なおもしろいことについて話して、色々教えて下さり嬉しかったです。日本の文化・宗教・考え方などについての話がとても勉強になりました。お寺の中に住むのはとてもすばらしい経験だと思います。朝早く起きて、座禅をやってみました。私はインドのメディテーションを実習するから座禅にとっても興味を持っています。座禅できてとても嬉しいです。

三日目のインタビューはとても面白かったと思います。新聞記者はとても面白い人で、みんなは緊張しないで色々話しました。(※今回の取り組みは地元紙「沼津朝日」で取り上げられました。)

温泉もとても良かったと思います。夏なのに、温泉はとても気持ちよくてびっくりしました。その上、色々なプレゼントもたくさんもらって、本当に感謝を言葉に表すことができないと思います。

このホームステイはとても良い思い出になって、人生の初めてその経験ができて嬉しいです。他の人も同じように楽しく時間を過ごすことができるから、そのホームステイのプログラムをつくった人々に感謝します。

まことにありがとうございます！



4-2

ニコラスさんを迎えて

会員 増田 照美

8月14日、東京外国語大学の大学院生のニコラス・バジェステロスさんが愛媛県新居浜市に青春18きっぷで丸一日かけてやって来ました。21日まで約一週間のホームステイの始まりです。初めて留学生支援の会のホームステイを受け入れたので要領が解らず、思案していました。が、案ずるより産むが易しと深く考えずに始める事にしました。

まずは14日、正午ごろ到着。一旦我が家にお連れし、とてもお疲れの様子でしたが、とりあえず何かイベントをしないといけないという強迫観念から、アサヒビール四国工場の見学に行きました。見学の後はビールの試飲ができます(ジョッキ3杯まで無料)。連日の気温37度の猛暑でしたので美味しかったです。15日、お盆の墓参りに一緒に行った後、住友金属鉱山発祥の地、別子銅山のある別子山村筏津山荘でそうめん流しとあゆの塩焼で昼食、そのまま徳島市へ。夕方から紺屋町演舞場で阿波踊りを見ました。阿波踊りはとてもエキサイティングな祭りです。ニコラスさんはずっと写真を撮っていました。私たちも初めての阿波踊りにすっかり心を奪われました。16日は高知市へ。坂本龍馬像のある桂浜、坂本龍馬博物館、高知城を見学しました。昼食は土佐のかつお丼。高知はどこも外国語の表記があって、ニコラスさんにも容易に理解できたのではないかと思います。夜は私の友人と一緒に、ワインと鴨鍋を食べる会に参加しました。50歳前後の8名くらいの会だったので20歳代のニコラスさんには楽しくないのではと危惧しましたが、要らぬお世話でした。アルコールで打ち解けて随分楽しそうでした。

17日から19日までの3日間は仕事がありましたので、私がボランティアとして所属する新居浜 SGG(国際交流・外国人サポート活動をしているボランティア団体)の友人達に助けてもらって、新居浜近辺を案内してもらいました。日本語のセミナー参加、禅寺での座禅、住友別子銅山の記念館や、閉鎖された銅山の坑道跡地にあるマイントピア別子、東平(とうなる)地区(最近、東洋のマチュピチュとして観光化している銅山跡地の建物が残る場所)など。

20日はまだ行っていない愛媛県の県庁のある松山

市に行きました。愛媛県の代表的な観光地の道後温泉を初め、天守閣が立派な松山城があります。仕事の為あまり時間を取れずニコラスさんには申し訳なかったです。そして21日の朝、新居浜駅でお別れしました。一日かけて無事東京に着いたと連絡をもらった時はほっとしました。

ここ数年ホームステイの受け入れを年、2、3回してきました。学生さんは近場の観光と交流が目的です。ニコラスさんを始めどの学生さんも真面目で日本に興味を持って来られます。交通の便も悪くクルマが不可欠な場所ですが、いろんな日本を知ってもらえたらと願い交流を続けています。加えて国際交流を通じて色々な国の方に出会える楽しさも忘れることはできません。うちに来られるのも何かの縁と思い、是非今後も続けていきたいものです。

私の日本の家族

大学院博士前期課程 P C S コース
バレステロス・ロペス・ニコラス（スペイン）

8月14日、電車が新居浜に到着するところでした。東京からの長い旅の末、ようやくホストファミリーに会うのです。知らない家族の家でお世話になった経験はなく、私の日本語のレベルもあまり高くないので、私は少し緊張していました。「コミュニケーションはとれるだろうか？」——しかし、増田さんは会った瞬間からとても親切に接してくれました。彼女は新居浜駅まで迎えに来てくれていて、私を車で家へと連れて行き、家族に紹介してくれました。二人の子供と、私のホストファザーである旦那さんです。残念ながら、東京で生活しているという二人の娘さんたちは、忙しくてお盆には帰って来ることができなかったようです。

増田さんの家に着いた瞬間から、私はなんだか自分の家にいるように感じていました。長い間一人暮らしをしているので、家族と一緒に時間を過ごすのはすばらしい経験でした。この夢のような一週間の間、増田さん御一家は私を家族の一員のように扱ってくれました。彼らが何を話しているのか分からないこともたくさんありましたが、少しの努力と忍耐ですばらしいコミュニケーションをとることができる、特別なメンバーとして。

たった一週間で、増田さんたちは私を四国中のたくさんさんの興味深い場所へ連れて行ってくれました。徳島の阿波踊り、高知の坂本竜馬記念館、松山の松山城と道後温泉など、その場所の歴史や文化などについても説明をしてくれたので、私もその場所をより深く知ることができました。これは彼らがいなければ不可能なことでした。

増田さんは新居浜も案内してくれました。禅寺である瑞応寺では瞑想というすばらしい経験をすることができました。また、日本の近代史に登場する場所のひとつである住友銅山も訪れました。この場所は日本の近代化の過程とその現代との関わりを理解するのに、とても重要な場所だと感じました。

増田さんは私をお友達にも紹介してくれて、彼らも増田さん御一家と同様、私にとってもよくしてくれました。彼らと話したり、お茶を飲んだり、新居浜の近くを見てまわるのはとても楽しかったです。この旅ではたくさんすばらしい人との出会いがありました。彼らのことは絶対に忘れません。

しかし、もっとも興味深かったのは、日本人の家族と一緒に時間を過ごし、日常生活について学び、その一員だと感じたことです。新居浜での夏休みを私は一生忘れません。

よそ者として新居浜に足を踏み入れ、友人として新居浜を去りました。

増田さん、本当にありがとうございました！



from

スペイン人の息子

ニコラス



VOICE

5. 留学生の声

5-1

十年前の自分と今

—いつ終わるかわからない東京での留学生活—

大学院修士課程 2年

チェ ヨンジュン（韓国）

小学生1年生であった1988年、ちょうどソウルでオリ

ンピックが開かれ、偶然にも日本と韓国のハンドボール試合を見に行ったことがある。そのとき応援にきた日本の応援団の応援上手さには感動した覚えは今でも鮮明に記憶に残っている。肉眼で日本人を見たのはその時が初めてであった。

以来、日本の漫画やアニメ、ゲームなどを始め、さまざまな文化に憧れを持ち続け、大学への進学は日本へ行くことを決心した。来日するまえはソウルの某大学の付属語学教室で日本語を猛勉強し、隣にあった韓国語学堂で韓国語を勉強している日本の方々と交流も積極的に参加したことも懐かしい思い出である。隣国でありながら、まだわからないことだらけ。そういった思い出、私は日本のことをより深く知りたい気持ちでいっぱいだった。

初めて日本に到着したところは日本の古都、京都であった。古い日本、歴史の日本に接してみたかったからである。京都の日本語学校に通い、受験勉強や日本語の勉強に勤しんだ結果、幸い京都教育大学に合格することができた。大学に入ってもボランティア活動には積極的に参加することにした。私が日本に来る前、日本を知り、勉強しようとしていた気持ちを一人でも多くの人と共有してもらいたかったからである。また、逆に日本の方々に韓国のことについて伝えたかった気持ちもあったのかも知れない。

京都には、帰国子女・渡日生徒が数多くいる。その子達の学習支援をしたり、日本語を手助けをした経験もある。言語の不自由・人間関係で悩みを抱えている子供たちとキャンプに行ったり、ゲームをしたり、BBQをするなど課外活動や夏休みの宿題を一緒にするなど有意義な時間をともにすごしたことがある。また京都市内の小学校で韓国の文化や言葉・歴史・歌などを紹介した経験も持っており、これからもこのようなチャンスがあれば積極的に取り組んでいきたいと思っている。

また韓国語を教えるアルバイトも一生懸命した。韓国語を教えながら自分の母語である言語がどうしてこのような性質を持っているのか、どうしたら日本語母語話者に上手に使えることができるのかを真剣に悩んでいたのである。このときに初めて出会ったのが「日本語と朝鮮語の対照研究」だ。より深く両言語を研究してみることしたのである。その最適な場である東京外

国語大学大学院に受かったことはとてもうれしく思っており、現在でも研究に没頭している毎日である。まだまだ足りないことが多く、自分でも反省しているばかりであるが、一つ一つを着実に克服していきたいと思っている。

また 2010 年からは「留学生支援の会」のオフィスで週一回、会の手伝いをさせてもらっており、様々な方々に巡り会うことができたのも、幸運だと思っている。初めて日本に来たばかりで、日本語がまったくできない留学生もいれば、生活にとっても困っている人も中にはいるだろう。そういう留学生たちのサポートをしていたら、10 年前の自分のことを思い出す。

すべてが貴重な経験だと思うのでいつ終わるかわからない東京での留学生生活を思う存分楽しみたい。



5-2

今も、これからも感謝するのだ



—外語大の留学体験—

I S E P

ボンダレンコ・ロマン(ロシア)

2009年の10月から2010年の8月まで東京の外語大で留学していたが、今回はこの時期の思い出を述べてみたいのだ。これらは思い出というよりも、感想といえるだろう。

留学の10ヶ月間は、初めて海外に住む経験であり、本当に素晴らしい体験になったと思う。

勉強が学生には一番大切なものと言えるのか。それより、一番大切なものであるはずだと言えよう。勉強の側面から見てみれば、外語大への留学は理想的である。すばらしい先生方のもとで、日本語の授業で日本語の能力を全面的に伸ばさせて頂いており、日本文化に関する授業では知識を高め、視野を広げさせて頂いてきた。自由にプログラム外の授業を受けられたことも助かった。2009年8月、日本に行く1ヶ月前に「おはようございます」を思い出すのが5分ぐらいかかっていた私が今年日本語能力試験の一級を合格できたことは絶対に先生方のお陰だと思う。

もう一つの有り難いことがチューター制度である。海外の生活を体験していない、まだあまり日本語ができていない、日本の生活に馴染めない留学生が着いてすぐに友達ができるのはなんとやさしい制度であろう。

外語大の施設の中にも懐かしい場所になってきたものが多い。本物の学生生活に必須の部活の舞台となっている体育館、私たちロシア人にも寒い冬でもいつも無料で温かい御茶を飲める食堂、向こうでも滅多にない、ロシアの本を借りられる図書館、私がいつも助けて頂いていた留学生課・・・。

寮のことにに関して、部屋がものすごく便利であり、家賃も非常に安く、様々な施設もあり、何年間も住み続けたいほどだ。位置的に寮は講義棟や日本語教育センターに近く、朝には授業が始まる直前に起きる可能性を与えてくれる。しかし、ここは一つだけのマイナス点があり、冬の寒さと関係を持っているのだ。これは、寮の2号館の部屋はバス付きではなく、冬にはシャワーに行くためとっても寒い廊下を歩かなければならないのはかなり嫌だ。だが、立派な外語大で勉強できることと、特に、比較的に遅く起きる可能性の方が大事であり、どんなに不便なことでも耐えられることだ。

最後に少し述べたいのは、普通留学生があまり知らなさそうなことだ。外語大では、部活以外にも、留学生支援の会の提供する書道、茶道、尺八などの様々なことを無料で勉強できる教室がある。留学生の方は、この珍しい機会を絶対にミスしないでください！

今も、これからも、外語大や外語大の皆様に心より感謝するのだ。

ご入会、ご寄付 ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■ 一般会員

(平成22年5月27日～22年10月31日)(敬称略)

石坂明子、宇治田佳那子、尾形厚志、山本博枝

会員寄付者

■ 平成22年度一般寄付

(平成22年6月1日～22年10月31日)(敬称略)

板久恭子、池谷満、池田修晤、池永郁夫、五十幡圭右、市川友子、上野幸江、大塚定、大坪美智子、小野沢格子、角田秀夫、片岡護、北村みどり、合志正三、小島照恵、五島大介、五味和行、笹岡太一、鈴木千尋、鈴木文子、鈴木正道、関川祐治、田口勝美、立部貴文、中村直二、中村英深、中村宏、長谷川孝、本望春夫、森健祐、山岸隆夫、横石邦彦、横田淳子、吉田展子、鷺沢祐子、渡辺恵子

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせ下されば幸いです。

平成22年度 会費納入のお願い

まだまだ 随時受付

平成22年度も引き続き会員としてご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。(すでに本年度分納入済みの方はもちろん不要です。)振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

ACTIVITIES

6. これからの活動

1

国会見学・江戸東京博物館見学
ちゃんこ鍋をかこむ懇親会

日 時 2010年11月27日(土)
13時～20時ごろ

2

国際交流の夕べ
2010年12月17日(金)

今年も！

恒例の留学生との交流を是非お楽しみください。
会員の皆様のご参加をお待ちしています。

日 時 2010年12月18日(金)
18時～20時

場所 大学構内学生会館

当日のお手伝い・参加可能な方は、当会または
下記までご連絡下さい。

042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成22年 7月18日(日)

平成22年10月17日(日)

平成22年11月20日(土)

HOME VISIT & STAY

今年の4月から10月の間に、愛媛、静岡、千葉、新潟、東京の会員や支援者の方々の19ものご家庭が、21人の留学生を受け入れて下さいました。留学生達は、受け入れて下さったご家庭で様々な日本を体験し、楽しんで帰ってきました。今後も、多くの留学生が日本人の生活を体験したいと希望しています。

♪ ホームビジット、ホームステイ受け入れに
関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どしどし
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関する
感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。



Have a wonderful Christmas.

Have a wonderful Christmas.



<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183、5759

FAX: 042-330-5189、5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2010, TUFs International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No. 36
年3回発行

会報

Since 1999

留学生と春の鎌倉へ、遊びにいきませんか？ぜひご参加ください！
今年の春分の日、さてお天気は？（詳細は13ページ）

Pick Up
Event 2011

Bazaar at TUFS！バザー開催！4月12日(火)～18日(月)バザー用品受付
ボランティア募集！バザーの人手が足りません。（詳細13,14ページ）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

- Page 1. 1. 巻頭言
協働の創造力
- Page 2. 2. ご挨拶
38年来の新年会
- Page 4. 3. 活動報告
3-1 国会議事堂・江戸東京
博物館見学と、ちゃんこ鍋を
囲む懇親会
3-2 国際交流事業
3-3 国際理解教育への参加
3-4 茶道教室
- Page 10. 4. ホームビジット&ステイ
一つの夢が叶った！めっちゃ
楽しかった！！千葉県での
ホームステイ体験
- Page 11. 5. 留学生の声
大パニックと私の大事な思い出
- Page 13. 6. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

協働の創造力

東京外国語大学留学生委員会委員長
武田 千香

研究講義棟の一角に、学生で常に賑わう「多文化
コミュニティ教育支援室」という空間がある。ここはもと
もと国内の外国人児童生徒への学習支援ボランティ
ア活動の支援を目的として開設されたが、少し遅れて
国際理解教育活動が始まると、たちまちにして活気を
帯びたのを覚えている。創設に携わった私から見て、
その活動は支援室の活性剤だった。

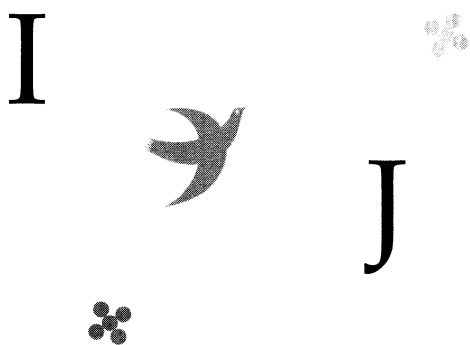
国際理解教育活動とは、本学の外国人留学生と日
本人学生がペアまたはチームとなって小中学校等に
赴き、留学生の出身地域の言語・文化・社会について
紹介する活動である。教材は、既成のものは使わず、
ほとんどが手づくりで、小中学生ができるだけ「リアル」
な国や地域の姿を理解し体感できるものでなくてはな
らない。そのために学生たちはI(International—留學
生)とJ(Japanese—日本人学生)の区別なく、言葉と文

化の違いを乗り越え、心をひとつにして授業のプログラムづくりに励む。そうしたプロセスを経るうちに彼らの間の理解は深まり、終わってみれば、それが何よりも自分たちにとっての「自己」国際理解教育だったことに気づく。最初は必要性から集っていた学生たちも、次第に自然に足を支援室へ運ぶようになり、いつしかそこは出身地域や専攻や所属の違い、そして年齢の差を越えた「多文化な」活力みなぎる交流の場へと進化を遂げていった。

人と人との間には、何のきっかけもなく友情は生まれにくい。単にお茶を飲むだけではなかなか友達にはなれないものである。だが、ひとたび何か共通の目標に向かって苦楽を共にすると、絆はとたんに強まる。同支援室の国際理解教育活動はまさにそれだったのだろう。「協働」の創造力である。

現代の日本に、大勢の留学生が学ぶ大学は珍しくないが、本学ほど、多様な地域から留学生を迎えている大学はそう多くはないだろう。そしてさらに、その多様性に対応できる専門性が、受け入れ側の日本人学生に備わっている大学となると、めったにあるものではなく、それは本学の誇るべき特長となっている。だが残念なことに、本来は「特典」であるはずのそのIとJの共存するキャンパスがまだまだ活かされていず、その交流の機会の少なさに対する不満の声が、本学に来る留学生のみならず、日本人学生からも挙がっている。

ここはIとJのみならず、大学と学生の協働こそが必要なのかもしれない。大学がIJ共学を推し進めるなど、IとJの交流の機会創出に取り組む一方で、学生のほうもそれに積極的に参加しつつ、なおかつサークルでも趣味でも、どんなことでもいいから、何らかの活動をIとJでやってみる。そうするうちにキャンパスには、きっと創造力みなぎる磁場が生まれることだろう。



2. ご挨拶

38年来の新年会

会長 中嶋 洋子

恒例のわが家の新年会が今年2011(平成23)年も1月2日に行われました。

この新年会はもともと夫(元東外大学長)の「中嶋ゼミの会」の学生やその卒業生たちのわが家での新年の集いで、自ずと勉強のこと、彼らの将来の問題、また、互いの人生観、世界観など自由に語り合う場となって始まり、夫が海外生活をしていた都合4年間を除いて、以来ほぼ38年間続いています。

この間、旧家である中嶋家の習慣に沿った家族のお正月の準備に加え(良い嫁として習慣に従うだけならむしろ簡単ですが、同居していた姑や一人っ子の夫との対人関係に心しつつ、それでも時には衝突しながら、そこに私の実家の流れをくんだ私の流儀をいかに表現するかには、私以外誰も知らない想像以上のエネルギーが必要で、それはまさに闘い!でした)、さらにこの会のために、私一人で家の掃除や料理など準備するのはいささかパワー不足で(子供はまだ小さく手伝いの力にはなっていませんでした)、中止しようかと思ったこともありましたが、そんな年にも何人かのゼミ生が必ず顔を出してくれ、中止の機会を失ったまま、現在に至り、家族の状況の変化もあって、以来1月2日はゼミの新年会として定着してきました。

また、開始以来、何人かの留学生(卒業生も含めて)が加わり、次第にその数も増えてきました。

私の手作りの料理で腹ごしらえをしていた頃、一同ひとりずつ全員が、現況や将来の希望や夢を語る場(ギャザリングと呼ぶことにしています)が用意されるのですが、ある時、すでに卒業していたネパールからの留学生がこう話しました。

「僕にとっては毎年この集まりに来ることが新年の始まりです。自分にとっての年始です」と。

その言葉は今も忘れることはなく、夫を慕って集まってくれる彼らに、私は自分の体力が続く限り、この会を大切にしたいと決意し、以来現在に至っています。

さらに、1999(平成11)年に「東京外国語大学留

学生支援の会」の会長の任務を、この私が担うこととなり、新年会の内実は大きく膨らんできました。

ゼミ関係者に加え、外語大学の留学生、卒業生たちが数多くこの新年会に加わり始めました。さらには、夫が現在学長を務める国際教養大学(秋田)の日本人学生、留学生も加わり、若い人たちが多くなり、国籍も多様化してきました。

中国、韓国、台湾、香港などアジアの近隣諸国、北米、西欧はもちろんのこと、イラン、エジプト、チュニジア、レバノン、イエメンなど中近東からの留学生、コロンビア、グアテマラ、バングラデシュ、ブルガリア(東欧)、フィンランド(北欧)などからの留学生も時に加わり、参加者は実に多岐に亘ってきました。今年の場合、その数はわが家族を除いて 100 名に近かったのではないかと思います。その中には二世ともいうべき子どもたちも数名いて、玩具で遊んで大騒ぎしたり、彼らにとって初めての百人一首に興じたり。

供される料理の筆頭は、ここ十数年続く北京など北方中国からの留学生や卒業生(内モンゴルからの留学生・卒業生も立役者です)が作る茹で餃子です。彼らが強力粉を練り上げて小さな丸い皮を作り、餡を入れて包んでいくさまはまさに名人芸です。毎年 500 個を目安にしていますが、それでは足りそうもなく、今年は途中で追加、実に 1,000 個近くを作りました。黒酢味の強いタレも独特。

モンゴル人の奥さんは、ボールソグと呼ぶ、ふっくらと膨らんだ揚げパン作りの名人で、食卓の上にこれが置かれるや一番先になります。材料は牛乳、卵、強力粉、マヨネーズ。それに無糖のヨーグルトのみ。モンゴル人でも慣れない人が作ると膨らまず味も悪く仕上がりも別の品物と思えるほど悪いのです。(申し訳ないですが)外語大学の大学祭での模擬店で若いモンゴル人留学生の作るつたないパンと比べて、そのことを私はよく知っています。

パンといえば、もう一つ、この2年、西安に住む中国からの留学生が“焼餅”という、それは大きなパンを焼いてくれます(そのために直径が 32 センチほどもある巨大なフライパンを用意しました)。元々はウィグル族が西方に向かって旅をする時に携帯する日持ちのよいパン、とのこと。味はシンプルだが、歯ごたえがあり、野菜や肉の炒め物などと一緒に食べるととてもおいし

い。珍しいのでこれまた好評。

もう一つ、韓国の“キムチ鍋”と“ちぢみ”を紹介しなければなりません。キムチはこの日のために、よく漬かっていて少し発酵の進んだものを、毎年留学生が前もって特注して持参してくれます。彼がアルバイト先の韓国料理屋のご主人から直に教わった本場キムチ鍋(ちぢみも)の作り方は、ここでは秘密にしますが、実に味が深く、白いご飯や手作りのうどんと一緒に食べると、いくらでも食べられます。

いずれにしても、これらの材料の調達や、前日までの半調理の準備は、この私の腕にかかっています。

加えて、豚肉を食べないムスレムたちのために、チキンカレーとシーフードカレー、それにナン(ガーリックナン、チーズナンはとくにおいしい)をネパール人が経営するわが家近くのお店から運んでもらいます。

縁あって知り合ったネパール人の留学生がそのお店でアルバイトをしていて、家族一同、すでになんども試食済み、味は保障します。

この他は、お寿司。今年も途中で追加。過去にはアメリカ(カリフォルニアのバークレイ)に長く留学していた次男の妻が本場の見事なカリフォルニアンロールを 100 本以上も作ってくれたこともありました。

東京中を訪ね歩いて見つけた(ややオーバー!)味もよく、種類も豊富な最高の焼き鳥(昔の新年会のような私の手作りではいまや追いつかず)を山のように並べます。それに大盛りの特製サラダに、わが家にホームステイした南フランスからの留学生から直々に教わった特製ラタトゥイやエスカルゴも。加えて今年の差し入れはほうれん草のパイ包みやら、長女のつれ合いの実家、伊勢から毎年のように届く新鮮な牡蠣やさざえなどあれこれの品々が並び、まさにインターナショナル満開の食卓!

日本のおせち料理は、多人数の、それも留学生たちを招くにはいささか不向きと思い、尋ねられればわが家使いの品々を供すことにしています。ただ、御屠蘇だけは和室のメインテーブルに置きます。留学生たちは、屠蘇酒は正月の祝い酒で、清酒に屠蘇散(サンショウ、ニッケイ、キキョウ、ボウフウなど薬草を砕いたもの)を加えて一夜漬けたもの、との説明を受けながら試飲します。森の精を感じるその匂いと味は、

いかにも長寿を祈るお酒で、お正月にふさわしいですね。お座敷の畳に座り、次の間の切り炬燵に足を伸ばし、鏡餅のお飾りや、年末に取り換えたばかりの掛け軸や松、梅などの活花がお正月を演出している床の間を眺めながら、留学生は日本の文化を感じてくれたでしょうか？

大阪に住む長男家族、ハワイ在住の次男家族も今年は勢ぞろい、もちろん近くに住む長女、次女の家族合わせて15名、そのうちの動けるスタッフ数名と料理名人たちがフル稼働です。

ギャザリングでは、日本語、英語はもちろん、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語など飛び交い、マイナー言語への配慮もしつつ、通訳は、そこは外語大関係者の多い集まりだから、瞬時に誰かがかかってきます。

すでにそれぞれ所属する場で大活躍しているゼミの卒業生たち、大学教授、新聞社、通信社や出版社に勤務する面々、TVやラジオのコメンテーター、同時通訳者等々、言語や国際関係を論じる優れた日本の現役が語る“ひと言”は、若い留学生たちを大いに刺激するようです。

そんな按配ですが、最近は参加者が多すぎて細かい話ができないのが残念です。その続きは、デザートとお茶の時間に、自由に情報や意見の交換が行われることとなります。

時間の経つのがあまりに速い、最後の人たちが帰ったのは今年も深夜を過ぎていました。昔はゼミの連中が徹夜マージャンに興じたこともよくありましたが、小さい子ども連れとなるとそうもいきません。

それでは、
明年歓迎再来！

3. 活動報告

3-1 国会議事堂・江戸東京博物館見学と、 ちゃんこ鍋を囲む懇親会

去る11月27日(土)おだやかに晴れ渡った晩秋の週末、恒例の国会議事堂・江戸東京博物館の見学とちゃんこ鍋を囲む会が行われました。今年は、留学

生33名、日本人学生6名と幹事9名に参加となりました。国会議事堂では、午後1時から衆議院面会所で、議事堂のパンフレットを、恒例の希望する言語のものを一部ずつ貰い、ポスターセッションを受けてから本会議場へと進みました。示し板を待つ時間に座り、テー王音声の説明を聞きました。留学生たちは、日本の政治の中枢にじかに触れ、興味関心は、それぞれのメモリー(記録)に収めていました。そして、いつもは見学できる御休憩所は、2日後に行われる“議会開設120周年”記念式典の準備のため閉ざされていました。

また、議員の紹介なしで見学できないという、今までのスタイルを変えて、自由に見学できることになり、その分説明も簡素になり、心のない冷たい大理石の建物そのものになり、今の政治を物語っていると思われるほど味気ない内容でした。

しかし、澄みきった青空が、議事堂の建物の威厳と崇高さを際立たせてくれていました。留学生たちは、日本の政治の一端を少しでも感じたのではないのでしょうか。

その後、いちよう並木に見送られ、永田町を後にして地下鉄半蔵門線と大江戸

線を乗り継ぎ、江戸東京博物館へと移動しました。館内6階常設展示のお江戸では日本橋を渡って、江戸の町並みを通り過ぎると、実物大の纏や天秤棒の肥桶があり、実際に持ち上げたり、担いでみたりして、先人達の生活に触れることができ、留学生たちにとっても貴重な体験になったと思います。つまた、昭和を偲ぶ縁側のある家庭や尋常小学校の椅子と机、あたかもタイムスリップしたようで、どことなくつかしく感じました。

費用の関係で学生たちは入場しませんでした。特別企画展の日本の女流放浪作家の林芙美子展では、対象時代の放浪の香がそこはかとなく漂い、女性が男性に翻弄されながらも生き活きと生きる姿には逞しさを感じました。

それぞれの時代の日本の歴史に触れたひとときでしたが、午後4時を過ぎる頃になると空腹を感じ始めました。幹事の誘導で大きな熊手をバックに記念撮影した後、ちゃんこ鍋のお店に向かいました。

豚肉抜きのお鍋、ベジタリアン向きのお鍋、というよう

に留学生の生活習慣を大切に受けとめた対応をしていただきながら、力士の定番料理を堪能することができ、留学生達も会話が弾み(ただ一点、コンロの点火がうまくいかないテーブルがあったこと以外)理想的な懇親会となりました。

(幹事 鈴木記)



(↑ EDO TOKYO MUSEUM へ、レッツゴー！。皆様もぜひ一度行ってくださいネ！)



(↑ 江戸東京博物館にて記念写真。師走の勢いに乗り、来年も良い交流を願いました！)

今日はとても贅沢だな！

食べ放題のちゃんこ鍋！

教研生

ノ ヨンイン (韓国)

友だちから11月27日に国会議事堂の見学があると聞いていち早く申し込んだ。500円の参加費が要るがちゃんこ鍋が食べられるそうでとても行きたかった。

いよいよ11月27日。申し訳ないが5分ぐらい遅れて着いたので急いで一行を追い掛けた。

ニュースでよく見る総理大臣や議長の座席に表札が貼り付けてあった。ガイドさんからの説明を聞きながら移動した。内部全体はなんか厳肅感や臨場感にあふれていた。正門の前で団体写真を撮ったり国会議事堂の建物を撮ったりした。しかし見学の時間が思ったより早目に終わらせられて少し残念だった。

次は江戸東京博物館へ向かった。地下鉄で両国に行ったが地下鉄の切符を貰って本当に良かった。江戸東京博物館は十年前に来たことがあるが、ほとんど覚えていない。江戸の町の雰囲気がある造形物だけ覚えている。韓国では自分が分かる限りだけ物事が見えるという言葉がある。今学校で浮世絵の授業をとっている。越後屋の造形物を見て、あれが浮世絵を売っている店だと分かった。授業で浮世絵がどういう課程で作られるのか教えて貰ったけれども、実際の作り方を順番で再現した本物を見てちゃんと分かるようになった。勉強すればするほど物事の意味とか価値をよく分かるようになるのではないかと思った。

最後はちゃんこ屋でちゃんこ鍋を食べた。七年前、韓国で相撲大会があつて通訳やガイドのスタッフとして働いたことがある。その時、ちゃんこ鍋が売られて食べようとしたら売り切れでとても残念だった。いつも食べたかったが韓国ではあまりないし、ここでは財布が寂しいので食べられなかった。留学生支援の会の会長の挨拶を始め皆さんと一緒に乾杯した。あついスープを一口飲んだらなんとも言えないおいしさ。少し疲れていたが食べ始めると元気が出た。しかも食べ放題だから嬉しかった。お肉と野菜をたっぷり入れてよく煮て食べた。やはり冬といえば熱い鍋料理が食べたいのだ。今日はとても贅沢だなと思った。

この機会を作ってくださった留学生支援の会の皆様には本当に有難く感謝する。また、こういう機会があったらぜひ参加したい。

ふっ！ふっ！ふっ！

留学生、いざ国会と

江戸東京博物館&ちゃんこ鍋

2010 年度国際交流事業「日本文化交流会」と 留学生友好交流のための懇談会「国際交流の タベ」が楽しく、賑やかに開催されました！！

留学生にとって毎年楽しみの、大学・支援の会共催の国際交流事業が、2010年12月17日(金)午後1時から8時まで、大学会館と国際交流会館交流ホールで開催されました。

第一部の「日本文化交流会」では、恒例のごとく、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「将棋・囲碁教室」、「折り紙・和紙人形・墨絵とお琴演奏教室」の5つの体験教室を開きました。今回は、授業との関係で興味があっても出席できない留学生達もいましたが、参加した留学生たちは、それぞれの教室で講師の指導のもとで、自分でも驚くほど上手にお花を生けたり、墨絵を描いたり、琴を演奏したりと、初めて体験する日本文化を心から楽しんでいました。新たなものに挑戦し、体験する中で、留学生達は日本をより理解し、日本にもっと近づけたと思ったことでしょう。

第二部の留学生の交流・友好を広げる場である懇談会「国際交流のタベ」には、日頃留学生を支援、協力してくださっている来賓の方々、大学関係者と留学生が、総勢200名以上参加しました。アトラクションが始まり、歌にインドのダンスと会場は熱気にあふれ、盛り上がる中、支援の会の福引きで会場は沸き、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまいました。来年は兎の年、支援の会もさらに飛躍を期待して、交流会を終えました。(幹事 梅田記)



(↑パフォーマーがずらり。楽しい一夜となりました。)

プ ロ グ ラ ム

第一部

13時～17時 日本文化交流会

- ① 着物の着付け (国際交流会館二号館交流ホール)
参加者35人
- ② 華道 (学生会館集会室B) 参加者20人
- ③ 茶道 (学生会館和室) 参加者15人
- ④ 日本の伝統的遊び (学生会館大集会室)
参加者50人
- ⑤ 将棋・囲碁 (学生会館集会室A) 参加者15人

第二部

18時～20時 学生会館1階ホール

国際交流のタベ(懇親会)

参加者232人

18:00 開 会

- 挨拶 東京外国語大学・副学長 富盛 伸夫
留学生支援の会・会長 中嶋洋子
- 来賓紹介
- 乾杯 東京外国語大学・理事 宮崎 恒二

18:25 ア ト ラ ク シ ョ ン 紹 介

司会 イワン・スティヤ・ブディ(博士前期課程1年)
ナム・ヒジョン(研究生)

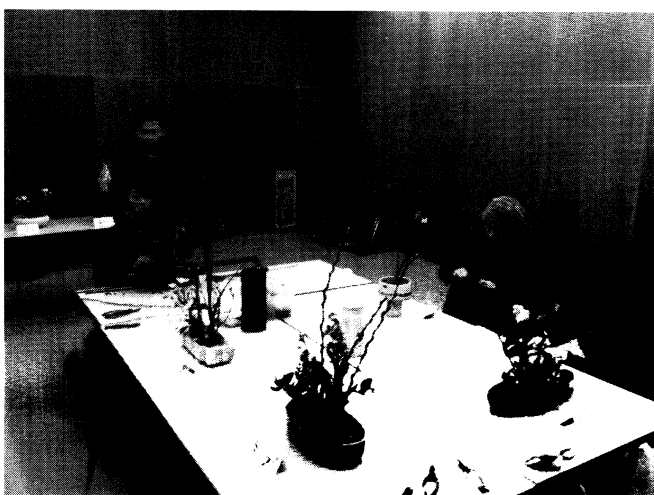
- ① バンド演奏…
ダルマダーツ(ちょびっとモンチー)
- ② アカペラ…アカペラ同好会LINES
- ③ ポップソングメドレー…岡田昭人&ISEP-BOYS
- ④ バングラとギッター(インドの踊り)…
スープリア(日研生・インド)
スープリティ(研究生・インド)
- ⑤ 福引き…留学生支援の会

19:50 閉 会

(共催:東京外国語大学、留学生支援の会)



(↑活花に初挑戦も、お見事！)



(↑留学生の表情は真剣そのもの。和の心を感じ、独自の感性で活けました。)

A master in Ikebana ?

華道の活動に参加して

I S E P

ビジネス・ミンダウガス (リトアニア)

I would like to express my thanks to the people that provided a great opportunity to try out Japanese flower arrangement at the Tokyo University of Foreign Studies. It was a

first such experience to me and the other International students.

Me and my friend literally side-walked into the room it was held, and because we were the only ones there the lovely old lady from the neighborhood has approached us to offer a free Ikebana lesson. We were first asked to pick the branches and flowers for our arrangement. You are meant to choose two pieces of the same branch, which is as it literally sounds a wild plant with less leaves and blossoms, and the two each of two different flowers that would be the base of the arrangement. The key to setting up an arrangement successfully is to have a right balance of length between the different flowers used. To start, branches become the support of the display being cut at 60cm length and placed at the back of the bouquet. The other two types of flowers are cut at 40cm and 20cm respectively and will stand for the front of the set up. We would then trim the leaves for a more elegant and lighter effect. Although technical advice of getting the right proportions is the key, the teacher's sensitivity as to where to face the blossoms and where to bend the branch for the most sophisticated shapes was the most impressive thing. Just by slightly twisting the rod, the effect of the arrangement totally changes giving a whole new look and feeling. I was surprised to see such wild bland plants can be turned into a dramatic piece of art.

Although I haven't become a master in Ikebana, I believe I have not just had great fun but had a chance to witness how Japanese are able to live esthetically and in harmony with Nature.

着付けの見事な体験

特別聴講生
劉艷（中国）

学校が催した日本文化交流会の日、私はずっと憧れていた着物の着付教室に参加した。本格的な着物を着ることは初めて、きついという感じより、端正だという感じがした。

着物は日本の伝統的な服装であり、着方はさすが複雑だと思う。私はきれいな鳳凰の図案の着物を選んだ。着た時二人の先生が手伝ってくださって、とても時間がかかった。肌襦袢・長襦袢・伊達締め・腰紐・帯・帯板・帯締め・ハンカチなども付いて、何枚も着た。そして、足袋と下駄も履いた。聞くだけでも複雑だと思われるのだろう。着あがったばかりの時はきつく、更に呼吸ができない感じだった。時間が経つと、だんだん慣れて、腰をまっすぐに伸ばして、自然な姿勢になって、自信に満ちあふれた感じになった。身体をきちんと端正されたわけであろう。

現在、日本では、伝統的な着物を着る人が少なくなってしまった。七五三や成人式などの儀式や催事の時のみ着物を着ている人が見られる。着物の普及率が衰退している主な原因として、着物が高価であること、着付けに手間が掛かること、活動性に欠けること、温度調節がしにくいなどを聞いた。しかし、着物の長所は誰でも着られることであろう。最初着物を持った時、長くて大きいと思ったけれども、着ている時は身長と体つきによって調節できることが分かった。そうしたら、着物の裁断も着物を買うときも便利になる。寸法は同じく布地と図案によるだけ着物を作ることができる。気に入った布地や図案があれば、ほかのことを考えずに買える。着物を着る時、前帯の内側にガーゼのハンカチや厚手のハンカチを折り畳んで入れておけば、お腹いっぱいでも苦しくなってもそれを抜けば一気に楽になり、融通が利くと聞いたことがある。それに、ちょうど着物を着る人が少ないから、もし華やかな着物を着ると目立つことになるのだろうね。私も帰国する前に着物を買に行くことに決めた。

親切なことに、今度の着付けの時、日本的な髪形も作ってくださった。そして、着物を着たままで、日本

伝統的な茶道を体験することができた。とても完璧な日本伝統文化の体験だった。日本に留学しに来たからには、日本の伝統文化を体験してみたいと考えている。今回の日本文化交流会に参加することを通して、着物や茶道の体験ができて、とてもいい経験であった。異文化の体験は確かに見事なことだと思っている。

“世界の社会人”に近づくために

国際協力専攻・修士2年
ビルンポス・イオアニス（ギリシャ）

国際交流会に参加させていただいたのは、今回で3回目でした。それでも、いつもメンバーが違い、さまざまな国や地域から来た方々と会い、多文化交流ができる国際交流会は、いつも楽しみです。特に今回は、ISEP・研究生時代の東京外国語大学の日本語教育センターの恩師と久しぶりに話ことができました、本当に嬉しかったです。

国際交流会を機に、言葉による意思疎通能力を伸ばすことができると思います。多文化・多言語の環境で、みんなに自分の文化を紹介したい、知識を共有したい、という気持ちがコミュニケーションの橋を作る大きなきっかけになります。壁に囲まれた自分だけの狭い世界に留まるのではなく、多様な文化を持つ人と交流することは、とても大切な経験になります。誰でも最初は緊張しますが、授業以外で会話の場があるとよりリラックスして話すことができます。

こういう風に、多文化の環境で自分の文化を客観的に考えることによって、「他人の目で見える」ことができるようになると思います。どうしても、自分の文化に対しては主観的になりがちですし、気がつかないことも多いものです。私の場合、学部時代にオーストリアのウィーン大学の日本学部で留学しました。私はギリシャ出身ですが、同じヨーロッパ内の国でも、文化はさまざまあります。ウィーンの人々とギリシャの人々がどう違うかということは、具体的な言葉で表現することは難しいですが、確かに違いを感じました。さらに、ウィーン滞在中に、自分が持っているギリシャ人としての文化をもう一度深く考えることができました。他の文化から来た人と直に接することによって、相手の文化を知るだけではなく、自分の文化を再発見することができ

ると分かりました。日本に来てからも、そのような経験は多いです。特に、初めて日本に来た人は、文化の違いに驚くことも多いでしょう。そこで、「驚く」だけではなく、自分の文化を見つめ直すことも大切です。このような経験を積み重ねることで、文化の多様性・個性を尊重することを学び、結果として、人と人、国と国の相互理解を深めることができると考えます。これは、大学で研究をする場合にも、非常に役に立ちます。

東京外国語大学の国際交流会では、このような多文化交流を通じて、相互理解を深めることを経験し、さらに自己理解も深めることができる、絶好の機会だと思います。面白い発見も毎日のようにあります。留学を通じて得ることができることは、新鮮味のないステレオタイプ的な思想・見解を乗り越えて、客観的な視点を身につけた「世界の社会人」に近づくということです。普段なかなか話す機会がない留学生と日本人学生や、異なる場所から来た留学生などが、お互いに成長できるこの機会を、より多くの人にぜひ積極的に活用していただきたいと思います。

3-3 国際理解教育への参加

東小金井小学校の子供と触れ合って

総合国際学研究科・修士
江 雪（中国）

日本の小学校で、小学生と今回のような近い距離で交流することは初めてでした。

最初のゲームはゲスト探しのゲームでした。子供は、上手くゲストを、質問を使って見つけることができなかったけれど、一生懸命英語を活用して、やっと探し出すことができていた。

その後の伝言ゲームは、一番楽しいイベントでした。中国語の単語は他の言語より短くて簡潔で伝わりやすいこともあり、チームワークを大切にして動きが速く、競争意識も強かった2班の子供たちは、4回連続一位を見事に取れた。最後、みんなも思わず「yeah！」と叫んだ瞬間、とても感動的であった。

休憩時間に女の子から積極的に声を掛けられて、一緒にお水を飲みに行った。6年生なのに背が小さ

いとか、英語が難しくて勉強したくないとか、可愛い悩みだった。国が違うけど、自分の小学生の時を思い出したら、似ていたような悩みもあったなと思った。この時、一瞬、小学校時代に戻ったような想いがして、懐かしく、賑やかで、楽しかった。

その後は、国を紹介する時間でした。私は、上海の夜景やパンダの写真を使って発表をしたところ、みんな大興奮してくれた。英語で説明するのは難しいけれど、日本語と英語を混ぜながら、話していた。

日本の小学生の中国にたいするイメージを聞いて、もっともっと中国のことを紹介する必要があるなと思った。まだまだ話したいことが多くあったけれど、15分間はあっという間で終わってしまった。

最後に、子供達のロックソーラン節の踊りを見て、真剣な顔で踊っている姿に心打たれる想いがした。

楽しい時間は、いつも速いもので、折り紙をもらって、手を振りながら Bye-Bye の時間でした。

今日はとても貴重な時間を経験することができた。たくさんの人との出会いを大事にしながら、留学生活を送っていきたいと思う。また、中国人の一人として、自分の国から見た中国をより多くの人たちと一緒に共有していきたいなと思った。



（↑小学生の熱く気持ちのいい視線を受け、改めてアイデンティティーや国際理解を互いに深める機会となりました。）

yeah !

3-4 茶道教室

精神性への理解

留学生支援の会「茶道教室」講師として

茶道裏千家準教授 廣瀬宗成

東京外語大に学ぶ留学生への支援活動として、日本の伝統文化である「茶道」を通じて一服のお茶に込められた精神性の一端を少しでも理解していただけたらとの思いから昨年四月より「茶道教室」の講師をお引き受けいたしました。

私の「茶道教室」の狙いは、受講する方々の時間的な制約＝授業や試験などのため定期的に学ぶことが難しいなど＝があるため“お茶を点てる”という技術的なことよりも“お茶の楽しみ方を体験する”ということに絞り、お茶やお菓子をはじめ茶花や床の間の掛け軸など茶室を構成するいろいろなお道具など全体の意味合いをできるだけ易しくお話してまいりました。

この一年間に教室にこられた方はのべ50人余、国数では10数カ国でありました。当初、言葉の問題や「茶道」という日本人にもなかなか理解しにくい伝統文化をどのように伝えたら良いか・・・という心配がありましたが、始めてみると留学生の皆さんはみな日本語がお上手で、まず言葉の問題は杞憂に終わりました。

さらに、「茶道」についても何人かの方はすでに母国で茶道を学ばれていたり、体験されていたりしていることが解って大変驚かされました。これは裏千家がかねてより海外での普及活動を活発にされていることの証であろうと思われます。

足袋やふく紗を持参され熱心に学ぼうとされる方をはじめ、和室に興味があったので覗いてみて参加された方、茶道と言う言葉だけは知っていたが体験したことがなかったという方等等、参加される動機は様々でしたが皆様一様にお茶を楽しんでいただけたことがとても印象的でした。

初めて畳に座りシビレを体験された方、バザーで買った着物を着てお茶を点てるできるようになった方、毎回のように参加されお点前ができるようになった方、さらに床の間に掛けてある軸の『日々是好日』への質問など皆様大変熱心に話を聞いてくださいました。

「茶道」の基本の心とも言える『和敬静寂』・『一期一会』などに現される精神性への理解をはじめ、床の間に飾られた茶花を見て日本の四季の移り変わりを感じながらお茶を楽しむということを一人でも多くの外国の方々に知っていただくことが留学生支援の一助になれば幸いと思っております。



(↑ひとつひとつ丁寧な動作や作法を教えてもらい、充実した時間だ、と留学生より。)

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ステイ

一つの夢が叶った！

めっちゃ楽しかった！！

千葉県でのホームステイ体験

日研生

バユ・セプティアン・ウィプリアント

(インドネシア)

今年12月10日から12日まで私は初めて日本でホームステイをしました。場所は千葉県いすみ市大原町です。本当に色々な初体験をしました。最初は日本のJR 特急若潮電車で初めて乗りました。いつも乗る電車と違う形も雰囲気も感じました。その電車は東京ディズニーランドの前に通過していたので、中から東京ディズニーランドが見えます。次に、大原駅に到着

して以来、楽しかった事を感じました。

ホームステイ家族の家に着いて、初めて伝統的な和風の家を見ました。本当に嬉しかったです。この前、日本に来る前にアニメやドラマからだけ和風の家が見られました。その時、いつか自分の目で和風の家を見なくてはダメだというやる気がありました。本当に一つの夢が叶えたと思います。

家に入って、また初めて事が沢山感じられました。初めて炬燵を感じて、畳や障子を見て、和風の寝方もしました。その時、やっと私はのびたとドラえもんにもつてもやることを感じる事が出来ました。

11日に初めて温泉に入りました。最初は少し恥ずかしい感じがしました。なぜなら、インドネシアにいた時、他の人の前で裸にする事は一度もしたことがなかったからです。でも、皆も同じ事をしたので、私もしました。温泉に入ったとたん、気持ちがよくなりました。本当に面白い初体験だと思います。

温泉に入る前に千葉の家庭菜園を見ました。後は初体験自分の手で菜園から野菜や果物を収穫しました。インドネシアでもその様な体験をしたことがありません。後はすぐ近くにある神社も見ました。その前にいつも見る神社と違うと思います。外から見ると建物の形や色が違うので、全然神社らしくないと思います。

12日に東京に戻って帰る前に初体験の日本の海岸を見ました。インドネシアに海岸が沢山あるけど、違う雰囲気を感じました。太平洋に面する海岸なので、波が高くて、物凄くきれいだと思います。本当に嬉し



かったの
で、泣き
そうになり
ました。
井上父
さん、井
上母さん、
お世話に
なっ
て、
有難うございました。短かったけど、めっちゃ楽しかったです。いつも寝すぎて、申し訳ありませんでした。心の底からさようならまで言えなくて、また会える日までの方がいいと思います。沢山初体験が感じられて、ずっといい思い出になります。

VOICE

5. 留学生の声

大パニックと私の大事な思い出

日本課程3年
牟 美英 (韓国)

2010年のクリスマスイブの夜、いきなり隣に住んでいる男性が金槌で私の部屋の扉を何回も殴り続けて、とても怖い思いをしてしまいました。私はその時、家に帰ってきたばかりで、部屋の中に一人でいたので、大パニックになってしまいました。一応、気を取り戻して大家に連絡をして大家が家まできてくれ、その後、警察もきてくれましたが、その家にはそれ以上怖くて住めないと思い、大家にそのことを伝え、その日から近くに住んでいる友達のところで2週間お世話になりました。そのことが起きた日は、留学中にこういう怖い思いをしたのは初めてだったので、怖くてよく眠れませんでした。しかし、問題はそれより‘これからどこに住む?’ということでした。ちょうど就職活動を始めようとした時だったので、早く落ち着きたかったのですが、年末だったので不動産は全部しまっていました。それに、引越しを予想してお金を貯めておいたわけでもなかったのに、金銭的な問題も加え、家族もいない日本でいきなり‘家なき子’になるのではないかと、私の不安はどんどん増していきました。その中、ふと思いついたのが「留学生支援の会」でした。‘留学生支援の会に行けば、助けてもらえるかもしれない、相談してみよう’と思い、事務所にいきましたが、年末だったので、留学生支援の会の方はいませんでした。しかし、出勤していた他の部署の方が私の事情を聞き、すばやく留学生支援の会の方と連絡を取ってくださって、次の日に留学生課の梅田さんに会うことができ、ホームステイを紹介してもらえました。最初は‘日本でホームステイ？珍しいね’と思いますが、敷金と礼金が要らないといわれて家をみにいきました。ホームステイ先は留学生支援の会でボランティアとして努めていらっしゃる井上さんのお家でしたが、井上さんはとても優しく、お家もとても素敵だったので、家をみせてもらってす

ぐ引っ越すことにしました。引越しの日、井上さんが私のアパートに車で向かいにきてくださったので、トラックを呼ぶことなく、引っ越すことができました。引越しの日には韓国人、日本人、それから中国人、ポルトガル人の友達も手伝いにきてくれ、早く引越しを終えることができました。この引越しをきっかけに、日本留学中に会えたいろいろな国から来た友達に感謝するようになりました。

ホームステイ先のご家族はとてもやさしく、穏やかで、当時かなり心理的に不安であった私を元のように元気に戻してくださいました。一人暮らしの時に適当に作って食べていた夕食とは比べられないぐらいのおいしい夕食。それから、夕食の後、家族のみなさんと一緒にお茶を飲みながらおしゃべりをしたり、犬と遊んだりして、いつも夕食の時間が楽しみになりました。それから、一人暮らしの時はよくスキップしていた朝ご飯まで井上さんがお母さんのように毎朝作ってくださって、前より一日が元気になったような気がします。また、今ホームステイしているところにはもう一人、タイからきた高校生の交換留学生がいて、よくタイ料理を作ってくれたり、タイダンスを教えてくださいするし、前ホームステイしていたほかの外国人留学生が家にたまに遊びに来るので、いろいろな国のことが聞けてとても楽しいです。

2010年のクリスマスイブにとっても怖い思いをしましたが、井上さんのご家族と東京外国語大学の留学生支援の会のおかげで、今は母国にいたときと同じぐらいの安定した生活をする事ができるようになり、とても感謝しています。留学中の日本で、家に帰ると優しい日本の家族が待っている、日本のお母さんが作ってくださるおいしい日本の家庭料理が食べられるという幸せ。このような日本でのホームステイ経験は大事な思い出として私の頭に一生残ると思います。

ご入会、ご寄付 ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■ 一般会員(平成22年11月1日～23年2月4日)

(敬称略) 佐々木菜穂子、中田多美

会員寄付者

■ 一般寄付(平成22年11月1日～23年2月4日)

(敬称略) 池端雪浦、小野美登里、川崎圭子、
下田菊美、高橋準一、田中啓雍、中川一
野中千恵子、松尾毅、松村洋三、矢島敏男



万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、
当会までお知らせできれば幸いです。

1月12日現在
会員数:1,205名
納入者:689名
納入率:57.2%

但し、このうち22年度の新入生とその保護者の新入会員が424名ですので、従来の(21年度まで)会員の方々の納入率は33.9%となってしまう。(昨年の同時期では45.8%でした)

すべての活動は、皆様の年会費で行っております。本年度会費の未納の方々は同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願いもうしあげます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

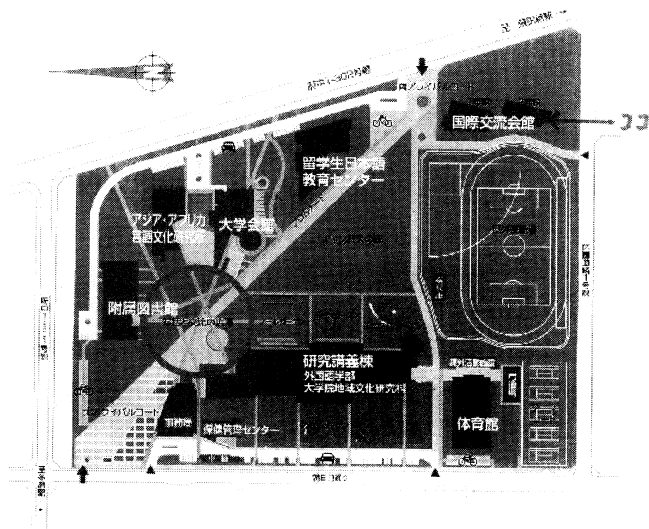
一般会員:年会費 3,000円

協賛会員:年会費 20,000円

会費納入の継続をお願い申し上げます！

留学生の笑顔で、私たちも笑顔で、新学期を、春を迎えたいものです。

※ 平日の時間(12:30～16:00)は、連絡室が開いております。受付期間中の直接搬入も可能となります。下の地図の場所(国際交流会館)までお願いします。なお、4月16日(土)の直接搬入は都合によりご遠慮いただきたいと思います。



JOIN FOR BAZAAR!



お願い バザーの人手が足りません!ご協力を!
バザー用品の物品仕分けや、準備・後片付けをする
人手のご協力をお待ちします。

当日のお手伝い参加可能な方は、当会または
下記までご連絡下さい。

042-330-5183(梅田 火、水、金のみ)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成22年12月5日(日)

平成23年1月15日(土)

平成23年2月19日(土)

平成23年3月12日(土) 予定

HOME VISIT & STAY

多くの留学生が日本人の生活を体験したいと希望しています。

♪ ホームビジット、ホームステイ受け入れに
関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どんどん
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関するの
感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。



留学生支援 会員の皆様ひとりひとりが
留学生の笑顔をつくれます!

通常 2 月に発刊しております本会報ですが、今回事
情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183、5759

FAX: 042-330-5189、5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2011, TUFSS International Student Support Association

TUFS 留学生支援の会 会報 | No.36